2023年度　研究・事務組織　D群

群	区分	頁	自己点検・評価対象部署	評価シートNo.
D	研究組織	1	先端研究センター	ES1101
		4	ペプチド研究センター	
		7	ミュオン理工学研究センター	
		10	国際人間学研究所	
		15	生物機能開発研究所	
		18	アイソトープセンター	
	事務組織	22	看護実習センター	EJ1101
		26	臨床検査技術教育・実習センター	
		29	理学療法実習センター	
		32	作業療法実習センター	
		35	臨床工学実習センター	
		38	救急救命教育・実習センター	
		41	管理栄養実習センター	
		44	監査室	
		47	総務課	
		53	人事課	
		57	出張旅費センター	
		60	財務課	
		63	会計課	
		66	国際関係学部事務室	
		69	人文学部事務室	
		72	応用生物学部事務室	
		75	国際連携課	
		78	地域連携課	
		84	教育支援課	
		87	図書館事務課	
		90	総合情報センター事務課	
		93	健康増進センター事務課	
		96	臨地実習推進事務課	
		99	研修センター	

２０２３年度（対象：２０２２年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	先端研究センター
人員構成	教員　１１人、職員・その他　４人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1110	特になし。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　＊成果の有無を問わない	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・先端研究センターにおいて、計画的に様々な先端研究課題を推進する。 ・外部資金等更なる大きなプロジェクト予算が獲得できるよう、申請に向けて書類作成の助言を行うなどの全面的サポートメールを強化する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。			
現状説明				
1110　「中部大学先端研究センター規程」の設置目的を達成するため、運営委員会で承認を得た年間スケジュールに従って活動を行った［1110a］［1110b］［1110c］。工学の基礎及び複数の学問分野の統合された学内プロジェクトを行うため、2022年度は6つのプロジェクト課題を実施した［1110d］。また、2023年度の研究課題の募集を行い、8プロジェクト課題を採択した［1110e］［1110f］。革新的な研究を開花させるための支援及び国際的研究活動の促進・支援を行うため、11月に講演会を開催した［1110g］。				

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
1120 「中部大学先端研究センター規程」に則りセンター運営委委員会を置き、センター運営に関する重要事項を審議するため、センター運営委員会を2回開催し、議事録を作成した［1120a］。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目No.1110	設置目的である「工学の基礎及び複数の学問分野の統合された学内プロジェクト研究を行うとともに、革新的な研究を開花させるための支援及び国際的研究活動の促進・支援を行う」を達成するため、7つの研究部門を置き、毎年度研究課題を実施している［1110d］。採択後に外部資金に申請することを応募条件としており、本センターが申請に向けて書類作成の助言を行うなど全面的サポートを行う［1110e］。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目No.1110	研究課題募集に関する応募条件等の見直し
今後の改善・向上方策	
研究課題募集に関して、2021年、2022年度に連続で採択された2名の研究者から申請があった。応募時に「連続申請不可」の条件は付していないが、選考基準に基づいて審査した結果、複数委員から「過去2年の研究課題の延長ではないか」「3年連続は公平性に問題がないか」との意見があった。このようなことから連続受給も含めた応募条件の見直しについて検討したい。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・先端研究センターにおいて、計画的に様々な先端研究課題を推進する。研究課題の応募条件等を見直し、新規や若手研究者のより積極的な応募を促す。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1110	a	中部大学先端研究センター規程	○
1110	b	2022年度年間スケジュール（第1回運営委員会配付資料）	○

1110	c	2022 年度先端研究センター運営委員会議事録	○
1110	d	2022 年度プロジェクト課題一覧	○
1110	e	2023 年度先端研究センター研究課題の募集について	○
1110	f	2023 年度プロジェクト課題一覧	○
1110	g	2022 年度先端研究センター講演会チラシ	○
1120	a	2022 年度先端研究センター運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1110　センターの設置目的を達成するため年間スケジュールに従って活動している。センターには７つの研究部門を置き、2022 年度は６つの、2023 年度は８つのプロジェクトを採択した［1110a］［1110b］［1110c］［1110d］［1110e］［1110f］。 1120　規定に則り運営委員会を置き適切に運営されている［1120a］。
長所・特色
1110　センターの設置目的を達成するために７つの研究部門を置いて毎年度研究課題を設定している［1110d］。採択後に外部資金へ申請する際にセンターが書類作成の助言を行うなど全面的にサポートしている［1110e］。
留意点
特になし

2023 年度（対象：2022 年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	ペプチド研究センター
人員構成	教員　3　人、　職員・その他　4　人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	週１回ミーティングで密に点検等を行っているため、委員会は設置していない（今後も予定なし）。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
委員会を設置していないので、引き続き週１回のミーティングを行い、問題事案が発生した場合、即座に対応できるように備える。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・触媒的ペプチド合成の開発

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	自己評価	S
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。			
現状説明				
1110　「中部大学ペプチド研究センター規程」の設置目的を達成するため、週１回定期的にセンター長と研究員との個別ミーティングを行い、研究の進捗状況について相談や検証を行いながら研究活動を推進している。さらに、必要に応じ全体ミーティングを行い、センター内の問題等について討論し改善に努めている[1110a]。 　重点目標である『触媒的ペプチド合成の開発』を推進するため、日々、実験・検証・考察を繰り返し行っている。その中で、新たな反応システムを確立するためには、より反応活性の高いアミノ酸エステルを開発する必要があることが分かった。これらを達成するには、網羅的な実験と情報収集が求められるためこの業務を専属で行う研究員が必				

要となり、派遣研究員を雇用することで対応した。そのおかげで、研究計画に遅れが生じることなく計画的に進めることができ、成果を論文にて発表した[1110b]。 　また、今後の研究費確保のため応募した科研費 特別推進研究に採択され、今後５年間の研究費を確保することができた。これで一気に、ペプチド合成の革新的手法の開発を加速させたい（2023年４月～研究開始）[1110c]。 　さらに、第一三共株式会社との共同研究『TaNeDS』が採択され、企業との本格的な共同研究をスタートさせることができる。これを機に、社会実装に向けたペプチド合成実現させたい（2023年４月～共同研究開始）[1110d]。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	S
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
委員会を設置していないので、該当なし。その代わりとして、週１回のミーティングを行うことで問題事案が発生し場合、即座に対処する。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1110	論文発表や特許出願等、先進的な研究が進められた[1110b]。
項目No.1110	科研費 特別推進研究および第一三共株式会社との共同研究『TaNeDS』が採択された[1110c][1110d]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1110	優秀な研究員の確保
今後の改善・向上方策	
科研費 特別推進研究が採択されたことにより、優秀な研究員の雇用が最重要課題となった。国内はもとより海外の研究員も視野に入れ優秀な研究員の確保に努めたい。また、繰り返し行う実験業務を専属で担当してもらうため、派遣研究員の雇用についても検討したい。このように研究員を増員することで、研究のスピードを加速化させ、一気にペプチド合成の革新的手法の開発を加速させたい。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
１．科研費 特別推進研究・研究課題名：『ペプチドの革新的合成と論理的分子設計』の推進 ２．第一三共株式会社との共同研究【TaNeDS】・研究課題名：『革新的ペプチド合成』の推進

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1110	a	中部大学ペプチド研究センター規程	○
1110	b	研究実績-発表論文（４報） ホームページ https://www.chubu.ac.jp/research/institute/molecular-catalyst/publication/	○
1110	c	科学研究費助成事業（科研費）特別推進研究　令和5(2023)年度　採択課題一覧 ホームページ https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/25_tokusui/kadai_shinki05.html#u20230323144322	○
1110	d	メール拝受　TaNeDS 二次選考結果のご連絡　受付番号1164（採択のご連絡）	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1110　センター設置の目的である「触媒的ペプチド合成の開発」を推進するための実験と情報収集を行って研究を行いその成果を論文で発表した［1110b］。科研費の特別推進研究に応募して採択され今後の研究費を確保できた［1110c］。第一三共㈱との共同研究が採択された［1110d］。
長所・特色
1110　論文発表、科研費・特別推進研究と第一三共株式会社との共同研究が採択されたことは評価できる。社会実装に向けたペプチド合成の実現を期待したい［1110a］［1110b］［1110c］。
留意点
特になし

2023年度（対象：2022年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	ミュオン理工学研究センター
人員構成	教員　2人、　職員・その他　3人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1110	設置目的を達成するための事業である研究機関・民間企業等との共同研究を促進するため、勉強会の開催等、具体的な活動が求められる［1110a］。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　＊成果の有無を問わない	
民間企業と「ミュオン勉強会（計４回）」を開催した［1110b］。 核融合科学研究所(NIFS)との共同研究促進し、NIFS ユニットへの研究提案「ミュオンと核融合科学の融合」を行った。結果、本研究は２つのユニット（「プラズマ装置学ユニット」「プラズマ量子プロセスユニット」）において推進することが決定され、NIFS との共同研究基盤を確立した（国際会議 ITC31 における各ユニット紹介[1110c]）。加えて２件の共同研究(NIFS23KIIF031，NIFS23KIIF032)が採択された[1110d]。	

☒ 課題事項　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1110	センター専任の教員・研究員（実験系）を充実させ、ミュオン科学研究を加速させる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　＊成果の有無を問わない	
2022年4月より新たにミュオン理工学研究センター専任の特任助教が着任し[1110e]、ミュオン科学研究のうち、特に J-PARC におけるミュオンビーム実験研究を加速させた。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
地上及び宇宙におけるミュオンに関する基礎と応用に関する教育・研究を推進する。同時に、研究機関や民間企業等との共同研究促進のための活動を実施する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。			
現状説明				
● 「中部大学ミュオン理工学研究センター規程」[1110a] の設置目的に従い、地上及び宇宙におけるミュオンに関する基礎と応用に関する教育・研究・アウトリーチを推進 [1110i]。 ● 民間企業とミュオンに関する勉強会をシリーズで開催（計４回）[1110b]。 ● 核融合科学研究所(NIFS)との共同研究促進し、NIFS ユニットへの研究提案を行った。本研究は２つのユニットにおいて推進することが決定され、NIFS との共同研究基盤を確立した[1110c]。加えて２件の共同研究が採択された[1110d]。 ● 日本学術振興会科学研究費助成事業の申請書に基づいた研究を実施し[1110g]、新たな競争的資金２件獲得した[1110h]。 ● 宇宙線ミュオンに関する日印グループミーティングを開催[1110j]。 ● 東京大学宇宙線研究所 2023 年度共同利用に、宇宙線ミュオン関連で 1 件採択された[1110k]。				

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
センターの管理・運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を開催した [1120a]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No.1110	今年度発表したミュオン触媒核融合に関する論文 (Scientific Report 12, 6393 (2022)) は、2022 年に Scientific Report 誌でダウンロードされた物理学論文のトップ 100 に入りした [1110f]。
項目 No.1110	学会発表・論文公表・アウトリーチ等により情報を発信 [1110i]。
項目 No.1110	競争的資金２件 (科研費 基盤研究(A)/若手研究) 獲得[1110h]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.1110	ミュオン“理工学”研究センター設置目的[1110a]を達成するため、「理学」「工学」の両面において、国内外の研究機関・民間企業・ベンチャー企業等との連携等、具体的な活動が求められる。
今後の改善・向上方策	
「理学」の面に於いては、獲得した競争的資金の申請書に基づいた先進研究を推進し、国内外の研究機関との連携を強化する。「工学」の面に於いては、先進ミュオン源に関する研究会の開催や、ベンチャー企業との連携、国内外の研究機関・民間企業との連携を強化し、研究資金獲得を目指す。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
地上及び宇宙におけるミュオンに関する基礎と応用に関する教育・研究を推進する。特に、設置目的を達成するため、「理学」「工学」の両面において、国内外の研究機関・民間企業・ベンチャー企業等との連携を強化する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1110	a	中部大学ミュオン理工学研究センター規程	○
1110	b	民間企業との勉強会議事録	△
1110	c	国際会議 ITC31	○
1110	d	NIFS2023 年度一般共同研究審査結果	○
1110	e	人事発令	△
1110	f	Scientific Report 誌 ダウンロード数トップ 100	△
1110	g	研究概要（科研費課題番号：18H05461,20H01920,22K14610）	○
1110	h	新規採択課題（科研費課題番号：23H00120, 23K13130）	○
1110	i	2022 年度実績リスト（論文･学会発表・アウトリーチ）	○
1110	j	日印グループミーティング	△
1110	k	宇宙線研究所共同利用研究採択結果	△
1120	a	ミュオン理工学研究センター運営委員会議事録（2022 年度）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1110 設置目的、年度重点目標に沿って研究機関、民間企業と勉強会等が実施され、競争的資金の獲得もされており、適切である［1110b］。 1120 管理運営組織の業務内容点検のため運営委員会により規程の改正もしており、適切である［1120a]。
長所・特色
1110 競争的資金の獲得の他、物理学論文も評価されている［1110c][1110d][1110ｇ][1110f]。
留意点
特になし

2023 年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究所
人員構成	所員　80 人，運営委員 8 人，庶務 1 人(2023.05 現在)

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1110	全てのプロジェクト（以下 PRJ）が外部研究費獲得に繋がっているわけではない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
• 海外に研究フィールドをもつ PRJ（ケロウナ PRJ とアジアのオルターナティブツーリズム PRJ）においては，Covid-19 感染症拡大防止のために活発な研究活動ができず，外部研究費獲得に繋がるような成果を出すことができなかった。 • 高山 PRJ は，2020 年度から 2022 年度まで（公財）大幸財団人文･社会科学系学術研究助成を得て研究を大きく推進した[1110a][1110b]。稚内 PRJ は科研費基盤 C に応募したが，A レベルで不採択となり[1110c]，2023 年度は特別研究費を得つつ研究所の 2023 年度プロジェクト募集にも応募し[1110d]，再度挑戦する予定。東濃 PRJ は，学術的成果の追求というよりは，地域貢献活動を前面に出した調査研究活動であり，その意味では大きな成果をあげた[1110b]。	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1110	活発に外部研究費の獲得を行なっている人とそうでない人が明確に分かれている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
• 研究費を獲得していない人にとってはセンシティブな問題であるため，正式な調査をしたわけではないので根拠資料はないが，非公式に聞いてまわった限りでは，それぞれのライフサイクル（介護や育児）やライフスタイル（研究より教育やアドミニストレーション重視）により活発に外部研究費の獲得を行なっている人とそうでない人がいることに加え，多額の資金を必要とする研究とそうでない研究といった違いが，外部研究費獲得への熱意に関係していることがわかった。（資金よりも時間が欲しいという声を多く聞いた。）	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
4 年計画の「持続可能な観光」プロジェクト群の最終年度として，地域の独自文化による観光戦略を考える国際シンポジウムを開催，各フィールドの地域社会や経済を支える持続可能な観光推進に関する有益な提言を行い，報告書『持続可能な観光 2022 年度』として刊行して広く世に問うことで研究所のミッションを遂行する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んで

いるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

<table>
<tr><td>自己点検・評価項目</td><td>1110</td><td>研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。</td><td>自己評価</td><td>S</td></tr>
<tr><td>評価の視点</td><td colspan="4">研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">現状説明</td></tr>
</table>

- 本研究所のミッション（設置目的）は，地域活性化（ローカリゼーション）を通した国際共生社会の実現（グローバリゼーション）に向けて，人文社会科学分野で学内外の研究を推進すること（規程第2条），および，それを通して国際人間学研究科の教育研究力をさらに向上させ，中部大学の存在意義を高めることである[1110e][1110f]。

- このことを念頭に，年度始めに研究所長・副所長・PRJ リーダーがインフォーマルなミーティングにおいて，「研究に係る事業計画と予算の提案」[1110f]の「研究所のミッションおよび方策」「ミッションに対する研究所の組織」「事業計画と予算案」等の項目の検討を通して年度重点目標[1110g]を設定し，運営委員会で承認[1110h]を得た後に，国際人間学研究科委員会で報告[1110i]し，活動の適切性を確認した。また，それに基づいて，研究戦略委員会においてプレゼンテーションを行い，質疑応答を受けた[1110j]。

- また，年度始めには，前年度（2021年度）の活動報告書を，年度末には，同年度（2022年度）の活動報告書をまとめ，経費の執行状況を把握し，所員の研究活動状況の目安となる外部研究費の獲得状況を調査して集計し，活動の成果を点検した[1110k] [1110a]。以上のようなプロセスを経て，活動の成果を検証して自己点検を行なっている。また，研究所設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めているかを，主にPRJ リーダーが相互に点検し，年度末のシンポジウムで成果を連携自治体にフィードバックし[1110l]，学会をはじめとする外部社会に問うて評価を得ることでも活動等の適切性を点検している[1110m]。

- 研究所ミッションの遂行にあたっての具体的な研究内容としては，本学の強みであるESD / SDGs教育研究を活かし，かつ，国連提唱のSDGs達成に寄与するため，2019-2022年度は共通テーマ「持続可能な観光」研究の下，大学院生・学部生・CAAC 生らも巻き込んで各地自治体（春日井市，恵那市，高山市，稚内市等）等と連携した地域貢献型の研究プロジェクトを推進し，海外研究機関を含む学内外をつなぐハブとして教育・研究・社会貢献を実践した[1110n] [1110o][1110p][1110b]。

- 2022年度は2019年度に運営委員会に採択された7PRJのうち，2021年度に引き続き，統合・終了したものを除く5PRJ，すなわち（1）東濃地方の地芝居等文化資源記録保存 PRJ，（2）飛騨高山の歴史観光都市としての伝統を支える人々が暮らす社会空間研究PRJ，（3）稚内市の地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築PRJ，（4）アジアのオルタナティブ・ツーリズム研究PRJ，（5）春日井市姉妹都市ケロウナにおけるハスカップ観光PRJで予算を配分して各フィールドで研究調査を進めた。しかし，燃料費等の高騰により，ケロウナPRJは前年度に購入してあった冷凍ハスカップの残りを使用して限定的に研究を進め，アジアのオルタナティブ・ツーリズム PRJ も文献調査や国内調査に終始せざるを得なかった[1110a][1110b]。

- PRJ群は，国際人間学研究科所属教員・海外の研究者・大学院生・学部生・CAAC生・地域住民等，様々な立場のメンバーによって構成され，特に学生らにとっては OJT 的に研究推進過程を体験するものとして設計するよう努めている[1110f] [1110a]。2022 年度は，稚内 PRJ の院生が研究成果の一部をデジタルアーカイブ学会で発表した[1110m]。

- 最終年度となった2022年度は，4年間の総括となる国際シンポジウム「持続可能な観光2022年度」を開催し，フィールドである高山市・稚内市から自治体関係者，恵那市からは自治体関係者に加えて伝統芸能の保存継承活動実践者としての歌舞伎振付師，ケロウナのブリティッシュ・コロンビア大学からは研究者を迎え，各プロジェクト群

の研究成果の報告と併せて，アフターコロナの「持続可能な観光」実現のための提言を行い，活発な議論を行った[1110l]。また，その成果を報告書「持続可能な観光2022年度」として刊行し公表した［1110b]。

- 上述のように各PRJは活発に推進され，年度始めに設定した重点目標は達成できたと判断できる。また，人文社会科学分野において学内外の研究を推進することで国際人間学研究科の教育研究力を向上させ，中部大学の存在意義を高めるという設置目的についても，少なくとも連携した自治体からは，口頭でではあるが，研究を高く評価され，その成果を感謝されたことから達成に近づけたと判断する。

- 一方で，外部研究費には繋がらなかったプロジェクトが大半であり，人文社会科学の分野において，研究に参加している学部生や大学院生の指導をしつつ地域貢献活動を行い，かつ学術的な意味での研究成果を上げることの難しさが課題として残る形となった。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
• 中部大学国際人間学研究所は，規程に則り，国際人間学研究所長（人文学部長），国際人間学研究科長，国際関係学部長，および，学長が指名する者として副所長，国際関係学専攻主任，言語文化専攻主任，心理学専攻主任，歴史学・地理学専攻主任からなる国際人間学研究所運営委員会を設置し，研究所の運営に関する万事をこの委員会に諮り，その承認を以って研究を推進している［1120a][1120b][1110e]。 • 2022年度は，第1回（2021年度活動報告・2022年度事業計画の記載事項の審議［1110h]），第2回（2022年度自己点検・評価，年度別重点目標の審議［1120c]），第3回（2023年度研究所人事の審議［1120d]），第4回（2023年度研究所プロジェクト群のテーマの審議・募集案の審議［1120e]の4回（メール）開催し，2021年度活動報告・2022年度事業計画については運営委員会で承認されたことを研究科委員会で報告し，自己点検・評価については研究科委員会でその内容について審議し承認を得た[1110i]。 • 具体的な活動方法やその都度の活動内容については，プロジェクトリーダー・ミーティングを開いて決め，意見を交換しつつ運営にあたっている[1120f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目No.1110	• SDGsに関連付けた「持続可能な観光」を共通課題テーマとし，地域貢献型の研究プロジェクト群を推進している[1110f][1110b]。
項目No.1110	• 各PRJは，様々な立場のメンバーによって構成されており，特に学生らにとってはOJT的に研究推進過程を体験するものとして設計しており[1110f][1110b]，2022年度はPRJに所属する学生1人が学会で研究成果を発表し，一定の評価を得た[1110m]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目No.1110	外部研究費には繋がらなかったプロジェクトが大半であり，人文社会科学分野において，研究に参加している学部生や大学院生の指導をしつつ地域貢献活動を行い，かつ学術的な意味での研究成果を上げることの難しさが課題として残る形となった。

今後の改善・向上方策
人文社会科学の分野では，多くの理系分野とは異なり，指導生が必ずしも指導教授と同系統の研究テーマを追求するわけではないため，教育と研究のどちらも，ということになると，なかなか時間的には厳しい。したがって，できるだけ PRJ のテーマに近い研究テーマに学生の関心を誘導する必要がある。また，地域貢献活動も目指すということであれば，フィールドとしている地域社会が何を求めているのかなども見極めて研究活動をする必要がある。例えば，地域振興は求めているが，観光化されることは求めていないという場合も考えられるため，今後は当事者たちの意識調査も含め，その結果を踏まえて活動する必要がある。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
2023 年度からの「持続可能な社会」PRJ 群では，調査対象となるコミュニティーの意識調査も踏まえ，学生，地域住民，自治体等，様々な立場の人々と協働して SDGs 達成に資する研究を行い，年度末にはその成果をシンポジウムの形で発表し，併せて報告書も刊行して世に問う。また，学部生を巻き込むことで，大学院進学を奨励する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	2022 年度 研究所（センター）の活動報告	○
1110	b	中部大学国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2022 年度」報告書	○
1110	c	科研費電子申請システム審査結果開示	△
1110	d	2023 年度 研究に係る事業計画（研究所・領域研究センター群用）	○
1110	e	中部大学国際人間学研究所規程	○
1110	f	2022 年度 研究に係る事業計画（研究所・領域研究センター群用）	○
1110	g	年度別重点目標シート	○
1110	h	2022 年度 中部大学国際人間学研究所 第 1 回運営委員会メール開催・議事録	○
1110	i	2022 年度 第 2 回大学院国際人間学研究科委員会 議事録	○
1110	j	第３回 研究戦略委員会での研究所活動報告事業計画の発表について	○
1110	k	2021 年度　研究所（センター）の活動報告	○
1110	l	国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2022 年度」チラシ	○
1110	m	第 7 回 デジタルアーカイブ学会 研究大会・発表予稿集	○
1110	n	中部大学国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2019 年度」報告書	○
1110	o	中部大学国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2020 年度」報告書	○
1110	p	中部大学国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光 2021 年度」報告書	○
1120	a	2022 年度 中部大学国際人間学研究所 運営委員会委員 名簿	○
1120	b	2022 年度 中部大学国際人間学研究所 所員 名簿	○
1120	c	2022 年度 中部大学国際人間学研究所 第 2 回運営委員会メール開催・議事録	○
1120	d	2022 年度 中部大学国際人間学研究所 第 3 回運営委員会メール開催・議事録	○
1120	e	2022 年度 中部大学国際人間学研究所 第 4 回運営委員会メール開催・PRJ 募集文案・議事録	○
1120	f	2022 年度 プロジェクトリーダー・ミーティング メール	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1110 SDGs に関連付けた「持続可能な観光」研究で、大学院生・学部生・CAAC 生らも巻き込んで各地自治体（春日井市，恵那市，高山市，稚内市等）等と連携した地域貢献型の研究プロジェクトを推進した[1110n][1110o][1110p][1110b]。デジタルアーカイブ学会で研究成果を発表し，１名の大学院生が一定の評価を得た。[1110m]プロジェクトの大半が外部研究費には繋がらず、学術的な意味での研究成果を上げることの難しさが課題となった[1110f][1110b][1110c]。 1120 国際人間学研究所運営委員会を設置し，研究所の運営を委員会に諮り，その承認を以って研究を推進している[1120a][1120b][1110e]。
長所・特色
1110 SDGs に関連付けた「持続可能な観光」で地域貢献におけるプロジェクトを推進し、大学院生がデジタルアーカイブ学会等で一定の評価を得ている[1110f][1110b][1110m]。
留意点
1110　プロジェクトの大半が外部研究費には繋がらなかったとのことだったので、今後の研究成果を期待する[1110c]。

2023年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	生物機能開発研究所
人員構成	教員9人、職員　1人（運営委員）

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	研究科の教育研究支援についての検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
2022 年度から、大学院応用生物学研究科附属研究所として設置形態が変更されたことを受け、運営委員会において、研究科の教育研究における研究所の位置づけを再確認し、その役割と活動について検討を進めてきた[1120a][1120b]。特に、研究プロジェクト支援と大学院生支援の具体的な方策の策定に向け、これまでの取組の有効性と問題点について検証した。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
1. 若手研究者の育成 a. 大学院生の研究補佐員への採用 2. 大型外部資金獲得のための研究支援 大型外部資金獲得をめざした学部・研究科所属教員を核にしたグループ研究の支援制度を見直し、充実させる。 3. 研究成果の公開等 大学院の中間報告会や研究所年度末報告会により、研究所発の成果を公開するとともに、ホームページでも広報する。 4. 研究力の活性化 応用生物学部O-say Open Seminar、大学院セミナー、ライフサイエンスフォーラム等を共催して研究力活性化を目指す。また、ホームページで研究関連情報を掲載して研究推進に寄与する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。			
現状説明				
中部大学生物機能開発研究所規程[1110a]に基づき、期初に運営委員会において前年度の事業報告書[1110b]およびそれを踏まえた当該年度の事業計画書[1110c]を承認し、計画的な研究活動の推進に努めている。また、外部資金獲得に向けた研究プロジェクトの支援、大学院生の研究補佐員採用については、対象者に周知し、広く応募を募るとともに、具体的な評価基準[1110d][1110e]を設定して運営委員会委員が審査・選定を行っている。				

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
生物機能開発研究所運営委員会を定期的に開催し、審議事項の資料[1120a]と審議・決定した議事録[1120b]を作成し、学部主任会に提出して事業の点検を行っている。なお、2022 年度は運営委員会を 6 回（うち 2 回はメール会議）開催するとともに、必要に応じてメールでの情報共有、意見聴取を行った。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1110	外部資金獲得に向け、新規性の高い研究、発展性が期待される研究の支援を行っている。
項目 No.1110	大学院生を研究補佐員として採用し、研究活動を支援している。
項目 No.1110	学外の研究者を講師とした大学院セミナーを開催している。
項目 No.1110	寄附研究部門を設置し、産学連携を支援している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1110	生物機能開発研究所研究プロジェクト
今後の改善・向上方策	
従来、“大型外部資金獲得につながる研究の核になると期待されるアクティビティの育成”を掲げてきたが、新規性の高い研究、発展性が期待される研究などのレベルを底上げし、研究目的、研究規模、教員のキャリア等に見合った外部資金の獲得につながる支援がより現実的で重要である。この方針を周知し、特に若手・中堅教員の支援を充実させる。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1110	研究科の教育研究支援
今後の改善・向上方策	
大学院生の支援として、研究補佐員の採用を継続してきたが、より多くの大学院生を対象とした支援の方策についても検討する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
昨年度、研究科の教育研究における研究所の位置づけについて再確認し、その役割と活動について検討を進めた。今年度は、研究プロジェクト支援と大学院生支援について、より実効性のある方策を策定する。また、若手教員の研究支援を目的として、学外での技術研修、研究集会などへの参加や共同研究の実施のための旅費を助成する仕組みを検討する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1110	a	中部大学生物機能開発研究所規程	○
1110	b	2021 年度研究所の活動報告	○
1110	c	2022 年度研究に係る事業計画	○
1110	d	研究プロジェクトの計画調書・評価票	●
1110	e	研究補佐員の申請書・評価票	●
1120	a	運営委員会資料	●
1120	b	運営委員会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1110　運営委員会で事業計画が審議され承認されており、研究推進が計画的に進められており、年度目標が明確になっていることは評価できる[1110c]。 1120　規程に基づき運営委員会が適切に運営されており、その中で研究所の役割等の位置づけを再確認している[1120a][1120b]。
長所・特色
1110　研究プロジェクト支援と大学院生の研究支援の２つの施策に対して、運営委員会で具体的に議論され実行されている[1110d][1110e]。 1120　運営委員会で研究所の役割等の位置づけを再確認しており、これまでの取り組みの有効性等を確認していることは評価できる[1120a][1120b]。
留意点
特になし

２０２３年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	アイソトープセンター
人員構成	兼任２人、その他１人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1110	設置から 20 年以上が経過し、施設設備の老朽化が問題であり、その改修、対応するための体制づくりと管理のための機器の更新が必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
2023 年度中にアイソトープ実験施設の閉鎖が決まっていることから、2022 年度は法令対応に必要な最小限の老朽化対策を行った。具体的には、施設設備は更新せず、故障の度にメーカーでの対応が可能なものに限り修理対応した。現時点で法令基準は満たしているものの、メーカーの保守期間を過ぎたために修理できず故障したままの機器が少なくない[1110a]。	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	これまでにも深夜を含め度々急な故障が発生したことから、深夜や授業中、出張中等に緊急事態が発生した場合に備え、対応可能な教員を複数配置しておく必要がある。また、センター予算では対応できないが法令対応に必要な高額費用の負担を柔軟に対応できる仕組みづくりも必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
2022 年度も突発的な故障が複数回発生したが、当センターに専任の教職員がいないため放射線取扱主任者の有資格者に業務が集中し、学生指導時間の削減や、時間外の対応が必要となった[1120a]。数年前から応用生物学部長のもとで若手教員の資格取得を促し業務を分担する方策が講じられているが、若手教員も多忙なために実現していない。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
当センターは教育・研究に必要な放射性同位元素（RI）を用いた実験のための環境を提供する。RI の取扱方法の監督と、放射線管理区域内の人・物の安全管理を法令に基づいて行う。学外の放射光施設等を利用する教員や学生の安全管理も行う。2023 年 5 月末をもって RI 取扱施設の使用停止、同年 9 月末までに閉鎖する予定であることから、閉鎖に向けた関連規定の検討、施設除染と RI 廃棄等を滞りなく行う。希望者の学外施設利用にあたっての便宜を図る措置も検討する。RI 取扱施設閉鎖後も、教育への協力や、法令に従った学外施設利用者の安全管理を継続する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んで

いるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1110	研究組織において、計画的に研究活動を推進していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究組織（研究所、研究系センター等）において、設置目的と年度重点目標に沿った研究推進を計画的に進めていますか。			
現状説明				
当センターは、放射線管理区域と放射線業務従事者について、放射線障害防止法および関連法令、中部大学放射線障害予防規程、中部大学アイソトープセンター放射線障害予防規程に基づき安全に管理・維持することが使命である。2022 年度もこれらの法令および規程に従い、放射線安全管理担当者および放射線取扱主任者が毎月安全点検と記録を行った[1110a]。2022 年度　自己点検・評価シート（2021 年度対象）にて報告したとおり、2021 年度アイソトープセンター運営委員会および放射線安全委員会において、利用者減少と施設設備老朽化のため放射線施設の閉鎖の方針が承認されたことから、2022 年度は 2023 年度の閉鎖に向けた検討や、閉鎖後も継続する放射線関係の支援業務について検討を行った。本学として持続的で責任ある放射線安全管理のために、若手の放射線取扱主任者の育成も重要である。				

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
前項のとおり、当センターは、放射線管理区域と放射線業務従事者について、法令および規程に基づき安全に管理・維持することが使命である。放射線安全管理担当者および放射線取扱主任者が毎月安全点検と記録を行った[1110a]。実施状況について、2023 年 3 月にアイソトープセンター放射線安全委員会において管理状況を報告した[1120a]。また、大学として行う自己点検に加えて、実施状況について委員が詳細に検証してセンターとしての自己評価を行った[1120b] [1120c]。これらについて、2023 年 3 月に中部大学放射線安全委員会に報告した。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1110	法令・規程を遵守して管理を行い、実験環境を提供しつつも放射線被曝事故や汚染事故がゼロであったことが、当センターとしての最大の成果である。
項目 No.1120	2013 年には国の立入検査を受け、管理状況が適切であることが確認されたが、2022 年度についても同水準の委員会活動により管理状況の点検と自己評価を適切に実施した。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1110	放射線管理区域と放射線業務従事者について、法令および規程に基づき、管理・維持を徹底する。 放射線施設の閉鎖を法令に基づいて安全に、かつ滞りなく行う。

	閉鎖後も継続する放射線関係の支援業務を行う。 若手の放射線取扱主任者の育成が望まれる。

今後の改善・向上方策
放射線管理区域と放射線業務従事者について、法令および規程に基づき、引き続き適切に管理運営する。 放射線施設の閉鎖に向けて綿密に計画を立案し、実行する。 閉鎖後も法令上必要とされる放射線関係の支援業務を継続して行う。 放射線取扱主任者試験を受験する者への支援を行う。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No. 1120	放射線施設の閉鎖に関連する業務が加わる中で、適切に実務と法的手続きを進めるとともに、放射線安全管理担当者および放射線取扱主任者が毎月安全点検と記録を適切に行い、委員会に報告し、センターとして独自の自己評価を実施する。

今後の改善・向上方策
2023 年度 9 月末までに放射線施設を閉鎖する案件については、外部専門業者とも連携し、放射性物質の完全廃棄、汚染検査と除染等の業務を完結し、法的な廃止手続きを適切に進める。全業務を通して、適切に放射線安全管理を行い、記帳を実施し、地域住民や国民に不安を与えることのないように、求めがあれば説明できるようにする。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
RI 取扱施設の閉鎖まではRI を用いた実験のための環境を提供する。施設閉鎖後も、学外の放射光施設等を利用する教員や学生の安全管理の実施や、便宜を図る。放射線関係の講義にも協力する。RI 施設閉鎖に向けた関連規定の検討、施設除染とRI 廃棄等の計画を立て、それらを実行し、2023 年 9 月末までに閉鎖を完了する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1110	a	2022 年度　維持管理簿　ほか 10 種類の帳簿	△
1120	a	2022 年度　中部大学アイソトープセンター活動記録	●
1120	b	2022 年度　アイソトープセンターの安全管理に関する自己評価	●
1120	c	2022 年度　中部大学アイソトープセンター放射線安全委員会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1110　法令・規程を遵守しており、事故もゼロで適切な実験施設の管理が行われている。センターの計画についても、運営委員会および放射線安全委員会にて承認されている[1110a]。 1120　運営委員会および放射線安全委員会において、実施状況の報告を行っており、また安全管理についてセンター独自の自己評価を行い、委員会で承認を得ている[1120a][1120b][1120c]。

長所・特色
1110　法令・規程を遵守しており、事故もゼロで適切な実験施設の管理が行われている[1110a]。 1120　安全管理についてセンター独自の自己評価を行い、委員会で承認を得ている[1120a][1120b][1120c]。
留意点
特になし

2023年度（対象：2022年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	看護実習センター
人員構成	教員2人、兼務教員21人、実習講師18人、実習客員講師25人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	学生の感染症・抗体価検査・個人情報保護等に対する内容・基準が、年々厳しくなってきており、対応に対して細心の注意を払っている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
多様化する要望に応えるため、高い基準で対応できるよう毎年見直を行っている。さらに、実習先と連絡･調整することで現状を把握･分析し、今後の指針としている。	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	実習先で指導対応にあたる本学の教員の人数が、実習施設の安全管理・事故防止等の観点から増員を求められる傾向にある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
本学の教員数の実情もあり、可能な限りで対応に努力している。愛知県内は看護養成校が増えており、実習先の確保さらには教員の確保が年々難しくなってきている。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。 カリキュラム改正に伴う臨地実習施設への説明等の連携を図る。 新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			

現状説明

1120　看護実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は以下のように行っている。

〔専門実務ワーキング会議〕

センター活動の企画･運営･検証･他部署との調整等について話し合う会議で、年4～5回程度開催。定例だが、必要に応じて臨時で開催することもある。職位･専門領域が偏らないようメンバーを構成し、毎年半数ずつを更新しながら継続性に配慮している。[1120a]

〔運営委員会〕

学部及び学科の幹部とセンター長/副で構成され、年1回以上開催。年間の活動を総括し、現状･課題･目標･方向性等を話し合う。[1120b]

〔実習連絡会議〕

担当教員･実習責任者が各実習先に出向き、実習先の指導者･責任者と実習前･後にそれぞれ1回以上行う。記録は実習科目責任者･実習センター長/副の確認後、いつでも閲覧できるよう事務室で管理している。更に、在宅看護学領域は、実習先の指導責任者と大学においての会議を行っており、各臨地実習施設の指導者間の情報交換の場ともなっている。[1120c]

臨地実習は常に実習先からの点検・評価を受けている。実習の安定的な継続には、相互の理解と多角的な点検･評価は欠かせないため、実習連絡会議は重要な役割を果たすものである。

＜臨地実習中に起きたインシデント・アクシデント関する自己点検・評価＞

医療関連実習では重要な検証の一つであり、記録方法･内容等を常に見直しながらファイリングし、関連する教員の確認を経、事務室で管理し、必用時に閲覧できるようにしている。[1120d]

＜看護実習センターが行う行事についての自己点検・評価＞

看護セミナーでは必ずアンケートを実施し、その都度検証･分析し、以降の行事及び臨地実習にも活かしている。[1120e]

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	・実習連絡会議は実習の安定的な継続のため、相互の理解を深める重要なものとなっている。 ・看護実習センター教員が定期的に臨地実習施設を訪問し、臨地実習の現状や課題などを把握することで継続的に実習受け入れの調整をしている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	学生の感染症・抗体価検査・個人情報保護等に対する内容・基準が、年々厳しくなってきている。

今後の改善・向上方策
今後も引き続き実習先と対話を繰り返し、対応に対して細心の注意を払っていく。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No. 1120	実習先で指導対応にあたる本学の教員の人数が、実習施設の安全管理・事故防止等の観点から増員を求められる傾向にある。
今後の改善・向上方策	
本学の教員数の実情もあり、今後も引き続き実習先と対話を繰り返し、可能な限りで対応に努力していく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。 カリキュラム改正に伴う臨地実習施設への説明等の連携を図る。 2023 年 5 月 8 日より、感染症法における新型コロナウイルス感染症は 5 類へ移行となる。それに伴い、臨地実習施設の感染症対策が変更となる可能性もあるため、臨地実習施設との密な連携を取り、安全な臨地実習の履修に向けて体制を整えていく。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	専門実務ワーキング議事録	●
1120	b	運営委員会議事録	●
1120	c	実習連絡会議報告書	△
1120	d	事故報告書	△
1120	e	看護セミナーアンケート	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　センターにおける自己点検・評価のために「専門実務ワーキング」「運営委員会」「実習連絡会議」の３つの会議活動を行い持続的な改善・向上に努めていることによって安定した実習の継続に繋がっている。臨地実習中に起きたインシデント等に関する自己点検・評価については重要な検証として適切に管理・活用されている [1120a] [1120b] [1120c] [1120d]。
長所・特色
1120　実習連絡会議としてセンター教員が定期的に実習先へ訪問して、臨地実習の現状と課題を把握しながら継続的に実習先の調整を行う取り組みが出来上がっている [1120d]。

留意点
特になし

2023 年度（対象：2022 年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	臨床検査技術教育・実習センター
人員構成	教員 2 人、兼務教員 21 人、実習講師 1 人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ. 課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	必要単位取得できなければ臨床検査履修コースに進むことができないため、年度によって臨地実習が必要である学生数が変動する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
臨床検査技師資格取得を希望する学生が４年次に臨床検査履修コースに進むために必要な科目の単位取得をできるよう全教員でサポートする。	

Ⅱ. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
現在、臨地実習先は確保されている。しかし、競合する養成校の増加や新カリキュラムによる臨地実習期間の延長に伴い、将来の方向性を十分検討し、実習施設と連携を強化し、生命医科学科の独自性の高い・優秀な人材育成を目標とする。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120　臨床検査技術教育・実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている <学内におけるもの> 〔実習センター運営委員会〕 臨床検査技師有資格者と生命医科学科の教員によって構成され、センター活動および国家試験対策に関する議案を中心に4回開催した。会議の議事録は、出席者全員の確認を経て確定している。[1120a] 会議では、臨地実習とその準備、事前/事後教育に関すること、実習先と指導者に関すること、就職、卒業生とのリレーション等について意見を交わし、問題点の確認・改善策・方針などを決めている。 〔臨地実習指導者会議〕 全ての実習先に案内し、本学春日井キャンパスで2回開催した。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・現状報告・問題点などを協議し、実習先施設間の情報交換にも一役かっている。各実習先へは教員が訪問し、点検・評価活動を行っているが、本学での実習指導者会議は、実習先の指導者が一堂に会することによって、連携・交流の強化および学生指導の向上に役立てることを目的の一つとしている。[1120b] また、この会議の後、実習予定学生との面談も行い、スムーズな実習への移行に努めている。(2回目はZoomで開催、学生面談なし） <学外で行うもの> 教員が臨地実習期間中にそれぞれの実習先を訪問し、実習先の指導者等と臨地実習指導内容および実習中の学生指導のための連携を行っている。その内容は、報告書として情報共有され、本学内で行う前述の「実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させている。[1120c]

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No. 1120	実習指導者会議は、出席した病院・施設の指導者間の情報交換の機会としての役割も果たしている。また、臨地実習指導者の方に、臨床検査履修コースの非常勤講師として指導に当たっていただく機会を得ることにも役立っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	新カリキュラム実施に向けて、学科と連携したセンター活動および国家試験対策の強化を目指す。
今後の改善・向上方策	
学科と連携して1年次から将来の医療従事者を目指すために必要なマナーや基礎知識・技術および国家試験を意識させる教育を推し進める。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
新カリキュラムに向けた臨地実習施設を確保する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	臨床検査技術教育・実習センター運営委員会議事録	●
1120	b	臨地実習指導者会議議事録	●
1120	c	臨地実習報告書	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 臨床検査技術教育・実習センターの自己点検・評価のための会議として、実習センター運営委員会を置きセンターの活動、国試対策などについて協議している。また、臨地実習指導者会議では実習先に本学の教育方針説明や各種情報交換を行うと同時に実習先施設間の情報交換の場にもなっている［1120a］［1120b］。教員による実習先への訪問の報告書によってその実態が共有され教育活動に反映されている［1120c］。
長所・特色
1120 臨地実習指導者会議は実数施設の指導者間の情報交換の場となっているとともに、各指導者に臨床検査履修コースの非常勤講師となっていただく機会ともなっている［1120b］。
留意点
特になし

2023 年度（対象：2022 年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	理学療法実習センター
人員構成	教員 3 人、兼務教員 10 人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
他大学及び学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいる。	

Ⅱ．自己点検・評価

0．事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
コロナ禍において実習施設が減少傾向にある、安定した実習施設を確保する。

1．現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4 段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
1120　理学療法実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている。 <学内におけるもの> 〔理学療法実習センター会議〕 理学療法士有資格者を中心とした教員によって構成され、センター活動の検証を行うことを目的としている。毎月				

の学科会議の際に行っている。[1120a] 〔臨床実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、本学春日井キャンパスで年１回行っている。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、質疑応答・現状報告・問題点などの協議・実習先間の情報交換等を行う。各実習先との点検・評価活動は、その都度教員が訪問や電話等で行っているが、この実習指導者会議では、50 を越える実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。なお、この指導者会議の後、実習予定学生との面談も行っている。(2022 年度は Zoom で開催、学生面談はなし) [1120b] ＜学外で行うもの＞ 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に訪問や電話等で、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「理学療法実習センター会議」の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させている。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1120	臨床実習指導者会議は、大学と実習先指導者双方の点検・評価活動にとって効果的であるだけでなく、指導者間の情報交換の場にもなっている。また、卒業生が指導者としてあたっている施設も多いことから、有意義な会議である。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
今後の改善・向上方策	
引き続き他大学及び学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいく。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	理学療法士養成に係るカリキュラム・実習時間数等の指定規則改定に伴い、実習先との連携・連絡強化が今まで以上に必要となり、変化に対応して行かなければならない。
今後の改善・向上方策	
カリキュラム・実習時間数等の指定規則改定に伴う変更について、指導者会議などを通じて説明し、連携を強化していく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	2022年度理学療法実習センター運営委員会議事録	●
1120	b	臨床実習指導者会議議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 様々な課題に対して、他大学や他の実習センターも参考に取り組み、適切である[1120a][1120b]。
長所・特色
1120 臨床実習指導者会議により様々な検証を行うとともに、理学療法センター会議の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させていることは評価できる [1120a][1120b]。
留意点
特になし

2023年度（対象：2022年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	作業療法実習センター
人員構成	教員1人、兼務教員12人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No. 1120	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
感染症対策や個人情報保護に関する学生への指導・教育は、他大学や他の実習センターの方針や活動内容を参考にしながら、実習施設で求められる水準を検討し対応している。ハラスメント等指導者との関係に関わる課題については、学生のレディネスや臨床実習指導者の教育・指導方法などを教員が把握、調整しながら実習が進行できるように対応している。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120　作業療法実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている。 ＜学内におけるもの＞ 〔作業療法実習センター運営委員会〕 作業療法士有資格教員によって構成され、センター活動の検証を行うことを目的とし、2022 年度は 12 回開催した。[1120a] 〔実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、本学春日井キャンパスで年 1 回行っている。(2022 年度はオンライン開催) 前年度の実習成績及び実習生アンケートの報告、本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・問題点などの協議・実習先間の情報交換等を行う。各実習先との点検・評価活動は、その都度教員が出向き行っているが、この実習指導者会議では、実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。なお、この指導者会議の後、実習予定学生との面談も行っている。[1120b] ＜学外で行うもの＞ 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「臨床実習センター会議」の場で点検・評価し、学科の教育活動に反映させていく。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No. 1120	臨床実習指導者会議は、大学と実習先指導者双方の点検・評価活動にとって効果的であるだけでなく、指導者間の情報交換の場にもなっている。また、卒業生が指導者としてあたっている施設も多いことから、卒業生を指導者に育成していく卒後教育としての意義もあり、評価できる。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No. 1120	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
今後の改善・向上方策	
感染症対策は刻一刻と変化している状況であるため、臨床現場で求められる水準を見極めて対応していく。個人情報保護については引き続き守秘義務、アナログ・デジタルデータの管理方法の教育・指導を繰り返し実施する。ハラスメントについては発生を未然に予防できるように学生・臨床実習指導者・教員の三者で相談できる関係を構築していく。今後も引き続き他大学や他の実習センターの方針や活動内容を参考にしながら、センター内で検討し対応していく。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No. 1120	作業療法士養成に係るカリキュラム・実習時間数等の指定規則改定に伴い、実習先との連携・連絡強化が今まで以上に必要となり、変化に対応して行かなければならない。
今後の改善・向上方策	
カリキュラム・実習時間数等の指定規則改定に伴う変更について、指導者会議などを通じて説明し、連携を強化していく。また、臨床教授等称号付与の制度を利用しながら、実習施設と大学との関係を強化、継続していく。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No. 1120	作業療法の領域のうち、精神障害領域・発達障害領域は施設数や従事する作業療法士数が少なく、実習施設の確保に苦慮する現状がある。質の高い学生教育のためには、精神障害領域・発達障害領域の作業療法を経験できる環境を整える必要がある。

今後の改善・向上方策
さらに東海 3 県の実習施設の確保を行う。できる限り学生が通学できる範囲での実習施設を確保するように努めるが、宿泊が必要な場合は、大学での費用負担（予算確保）を安定的にすることも必要と考える。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
競合する養成校が増加する中でも，安定的に質の高い実習施設を確保していく。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	作業療法実習センター会議議事録	●
1120	b	作業療法臨床実習指導者会議議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 臨床実習指導者会議は、大学と実習先指導者双方の点検・評価活動にとって効果的であるだけでなく、卒業生を指導者に育成していく卒後教育としての意義もあり、評価できる［1120b］。また、実習先での様々な課題（感染症対策、ハラスメント等）の対応とその関係性や強化が必要である［1120a］。
長所・特色
1120 卒業生を指導者に育成していく卒後教育の場所として、臨床実習指導者会議が効果的な役割をしており、評価できる［1120b］。
留意点
1120 実習先での感染症対策、学生の指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。今後の学生・臨床実習指導者・教員の三者で相談できる関係の構築が望まれる［1120a］。

2023年度（対象：2022年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	臨床工学実習センター
人員構成	兼務教員13人

基準11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
実習先から求められる感染症対策やその他課題については、学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいる。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	実習先の新規開拓・実習中の調整・検証等の訪問に関わる、臨床工学技士を有する教員が足りず、非常勤の教員にも対応をお願いしている状況である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
資格を有する教員が1名増えたが、臨床実習の様々な場面での人手不足が続いている。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的			

	に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
1120　臨床工学実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている ＜学内におけるもの＞ 〔臨床工学実習センター運営委員会〕 臨床工学技士有資格者を中心とした教員によって構成され、センター活動の検証を行うことを目的とし、ほぼ毎月学科会議と併せて開催している。[1120a] 〔実習指導者会議〕 本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・現状報告・問題点などの協議・実習先間の情報交換等を行う。各実習先との点検・評価活動は、その都度教員が出向き行っているが、この実習指導者会議では、実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。 ＜学外で行うもの＞ 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「臨床工学実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、学科の教育活動にも反映させている

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	臨床工学技士養成校では一般的に行われている前述の臨床実習指導者会議は、双方の点検・評価活動にとって効果的である。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	実習先の新規開拓・実習中の調整・検証等の訪問に関わる、臨床工学技士を有する教員が足りず、非常勤の教員にも対応をお願いしている状況である。
今後の改善・向上方策	
引き続き外部から招聘する客員・非常勤教員で対応していく。特に新規開拓を担う人材不足が大きな課題である。	

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	実習先から求められる感染症対策、個人情報保護に関する学生への指導・教育、ハラスメント対応など、課題が刻々と多様化・細分化されている。
今後の改善・向上方策	
実習先から求められる感染症対策やその他課題については、今後も学内の他の実習センターの活動内容を参考に取り組んでいく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	臨床工学実習センター運営委員会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　規程に基づき運営委員会が適切に運営されており、臨床工学実習センターの活動の検証が適切に実施されている[1120a]。
長所・特色
1120　臨床実習指導者会議により、実習先と実習の検証を行っており、その内容を運営委員会で点検・評価し、学科の教育活動に反映していることは評価できる[1120a]。
留意点
特になし

2023 年度（対象：2022 年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	救急救命教育・実習センター
人員構成	教員１人、兼務教員２人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	救急救命士履修コースは選択性のため、毎年実習生の増減が生じる。2019 年度までは希望者全員の履修が可能であったが、年々人数が増え、実習環境が手狭になってきている。感染症対策の面でも緊急の課題と言える。また、学外の実習先の確保も難しくなってきており、実習生の人数（定員）の検討も課題である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　＊成果の有無を問わない	
臨床実習の成果を最大限に生かすために行われる学内実習に関して、創設時に購入した限られた実習用備品・スペース・指導担当教員の状況下で、工夫を凝らし対応している。しかし、学内実習時間中に十分なトレーニングができないケースもあるため、実習時間外に自主的なトレーニングを盛り込むことによって対応している。	

☒ 課題事項　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	救急救命士の有資格教員が足りない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　＊成果の有無を問わない	
春日井市消防より非常勤の救急救命士に指導にあたっていただいている。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A

評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
救急救命教育・実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている ＜学内におけるもの＞ 毎月行われる学科の定例の会議において、救急救命実習に関しての報告・審議等の中で点検・評価を行っている。[1120a] 実習前に、実習日程・実習内容・学生の実習先選定等を協議し実習に備える。実習後は施設から返却された実習記録・評価等を実習担当教員が点検し、その中で個人・全体としての問題点を抽出し、改善に向け学生との面談を行い、総合的に検証している。それらの内容は学科会議で教員全体に共有している。 ＜学外で行うもの＞ 教員が実習期間中にそれぞれの実習先に出向き、実習先の指導者等と実習についての検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の学科会議の場で随時点検・評価している。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1120	春日井市消防本部から派遣されている現役消防職員（救急救命士）が、センター長と協議のうえ、実習先を開拓し調整を担っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	学内実習の質向上
今後の改善・向上方策	
臨床実習での実習効果を最大限に引き出すために学内実習は非常に重要であり、学内実習の質を上げることは臨床実習での効果を上げることにもなり、学内実習環境を改善するため現状の環境で器材の配置や収納スペースの変更等を行い、スペース確保に取り組む。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	実習先の確保
今後の改善・向上方策	
救急救命士養成コースに進む学生が増えることから、実習先を増やす必要があるため、近隣市町村の施設に依頼するだけではなく、県外の施設への依頼も増やしている。（2022 年度は、岡崎市消防本部、豊橋市消防本部、四日市市消防本部を実習先として新たに確保した。）	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標

競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	2022年度救急救命教育・実習センター議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　毎月行われる学科定例会議において、実習の状況報告、点検、評価を適切に行なっている。また、安定した実習先確保のため、春日井市消防本部と連携を取ったり、県外の施設への依頼も増やす等改善に努めている[1120a]。
長所・特色
1120　安定した実習先確保のため、春日井市消防本部と連携を取ったり、県外の施設への依頼も増やす等改善に努めている[1120a]。
留意点
特になし

2023（対象：2022 年度）年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	管理栄養実習センター
人員構成	兼務教員 24 人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	専攻を開設した時の定員を倍増したこと、愛知県内に管理栄養士養成校が多くあることから、臨地実習先の確保が常に厳しい状況である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
実習先の確保について、教員さらには卒業生とのネットワークを活用し、また、他学科の実習先の管理栄養部門に働きかけを行い、多面的に実習先確保に努めている。	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	ハラスメントに関する事案
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
引き続き学生へのきめ細かい指導と対応、実習指導者会議を通して双方での理解と取り組みを進めている。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。 COVID-19 の状況下で滞りなく実習ができるような体制を整える。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的			

	に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
1120　管理栄養科実習センターの自己点検・評価に関する会議活動は次のとおり行っている ＜学内におけるもの＞ 〔管理栄養実習センター運営委員会〕 センター所属の教員のうち、管理栄養士の資格を有する教員と専攻主任で構成され、専攻の教育に関することと併せて実習に関する事を点検・評価する場である。実習の進捗状況、課題、検討事項などについて報告・審議などを行う。また、コロナ禍の中、臨地実習が滞りなく実施できるよう様々な手法を検討した。2022 年度は 12 回開催した。[1120a] 〔実習指導者会議〕 全ての実習先に案内をし、本学春日井キャンパス内で年 1 回行っている。本学の教育方針・実習指導計画等を説明し、各実習先との質疑応答・報告・問題点などを協議し、同時に実習先間の情報交換も行っている。各実習先との個別の点検・評価活動は、その都度教員が出向き行っているが、この実習指導者会議では、多くの実習先の指導者が一堂に会することによって、多角的に双方の検証活動に役立てることを目的の一つとしている。(2022 年度は Zoom で開催した) ＜学外で行うもの＞ 教員が実習期間中の各実習先を訪問し、実習先の指導者等と実習の検証を行っている。その内容は、本学内で行う前述の「実習センター運営委員会」の場で点検・評価し、専攻の教育活動にも反映させている。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1120	他の管理栄養士養成校ではほとんど行っていない「実習指導者会議」「教育セミナー」を開設当初から行い、特に指導者会議は双方の点検・評価活動にとって効果的である。(2022 年度は Zoom 開催)
項目 No.1120	COVID-19 により現地での実習実施が難しくなった施設に対して、代替方法として、Zoom や Teams の活用やメールでの指導のやり取りをするなど様々な手法を利用しながら、遠隔実習を行うことで対応していく。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	専攻を開設した時の定員を倍増したこと、愛知県内に管理栄養士養成校が多くあることから、臨地実習先の確保が常に厳しい状況である。

今後の改善・向上方策
実習先の確保に向けて、教員さらには卒業生とのネットワークを活用し、また、他学科の実習先の管理栄養部門にも働きかけを行い、今後も多面的に実習先確保に努めていく。 2022 年度から愛知県での公衆栄養学臨地実習に 6 人の学生の受け入れが可能となった。今後、愛知県での公衆栄養学臨地実習の人数増加に向けて対応していく。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	感染症予防対策（抗体検査およびワクチン対応）の整備と効率化
今後の改善・向上方策	
翌年度臨地実習生全員の抗体検査を一括実施した。ワクチン接種状況確認の効率化を図り、今後も感染症予防対策を整備していく。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	ハラスメントに関する事案
今後の改善・向上方策	
引き続き学生へのきめ細かい指導と対応、実習指導者会議を通して双方での理解と取り組みを進めていく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
競合する養成校の増加に伴い、安定した実習施設を確保する。 COVID-19 の状況下で滞りなく実習ができるような体制を整える。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	管理栄養実習センター運営委員会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　自己点検・評価に関する会議としては管理栄養実習センター運営委員会を定期的に開催して実習の進捗状況の確認などとともにトラブルにも対応している [1120a]。また、実習指導者会議を年 1 回開催して実習先との意見交換を行うとともに実習先間の交流の場にもなっている [1120-01]。 追加根拠資料 1120-01：2022 年度管理栄養実習センター指導者会議事録
長所・特色
1120　「実習指導者会議」「教育セミナー」を実施して、本学と実習先の双方で点検評価活動を行っている [1120-01]。 追加根拠資料 1120-01：2022 年度管理栄養実習センター指導者会議事録
留意点
特になし

２０２３年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	監査室
人員構成	専任・嘱託　　　３人（うち１人は兼務）

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No. 1120	2019年度から実施している業務監査について、過年度の実施状況における反省点を改善し、よりよい形で 2022 年度以降も実施すること。特に内部監査手続書がより使いやすくなるよう、さらにブラッシュアップをはかる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
内部監査手続書については、毎年度、監査対象部門の業務特性に応じてカスタマイズしている。2022年度は特に予備調査での把握事項をコンパクトにまとめ、監査要点を明確にすることで実地監査時に使いやすいように改善した［1120a］。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
私立学校法改正の方向性を注視し、さらなる監査機能充実に向けて体制を強化する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120　監査室の業務は、事務分掌に記載のとおり、監事の職務支援業務と内部監査業務である。 監事の支援業務においては、2022 年度は学校法人ガバナンス改革の議論が進行中であったため、監事間での連携・情報交換のため 3 名の監事全員で構成している監事会において、今後の私立学校法改正の方向性に関する情報提供を適宜行った［1120b］。2023 年度は 6 月から新たな体制となるため、従来の支援業務の長所を活かしつつも、再構築が必要となる。 内部監査については、制度導入以来、学内の理解を得て内部監査業務を軌道に乗せることを監査室の重点目標として業務を行っている。内部監査実施にあたっては、テーマに合わせて事務系管理職に監査担当者を委嘱する方式を採っているため、部長会における定期的な実施状況の報告と、『教職員専用』HP への情報掲載を行っている［1120c、1120d、1120e、1120f］。 持続的な業務内容の点検については、日常的に常勤監事から助言を受けるとともに、監事会に監査室長が出席し、監事会での意見を監査業務に生かすことで行っている［1120b］。また 2020 年度から、内部監査業務終了時に「監査担当者アンケート」を実施し、監査担当者から寄せられた意見により監査業務を点検し、翌年度以降の業務に反映している［1120g］。 なお、2022 年度より、「中部大学競争的研究費等に係る内部監査委員会」の事務局業務を担当しているが、開催および議事録作成に関する手続きは適切に行っている［1120h］。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No. 1120	内部監査実施にあたって、テーマに合わせて事務系管理職に監査担当者を委嘱し、監査に協力してもらう方式を採っているため、内部監査を通じて監査担当者が他部署の業務を理解する機会となっている。また、学内にコンプライアンス重視の意識を醸成する役割を担っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No. 1120	監事の職務支援業務の再構築
今後の改善・向上方策	
2023 年度 6 月からの新たな体制に対応するため、監事の職務支援業務のあり方を再検討する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
2023 年度に改正が見込まれる私立学校法についての情報収集を進めるとともに、改正の趣旨に沿った監査体制の充実を検討する。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2022 年度業務監査手続書	△

1120	b	監事会実施状況	△
1120	c	2022年4月25日部長会資料 2021年度内部監査の実施状況について	○
1120	d	2022年6月27日部長会資料 2022年度内部監査の実施について	○
1120	e	お知らせ　2021年度内部監査結果の概要について ホームページ　https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-5097.html	○
1120	f	お知らせ　2022年度内部監査の実施について ホームページ　https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-5098.html	○
1120	g	2022年度監査担当者アンケート	△
1120	h	2022年度中部大学競争的研究費等に係る内部監査委員会議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　「監事の職務支援業務」については、私学法の改正の方向性に関する情報提供を行っている［1120b］。また、「内部監査」については、重点目標が設定され、部長会において、実施状況の報告を適切に行っており、学内に向けた広報活動を行っている［1120c］［1120d］［1120e］［1120f］。
長所・特色
1120　「監査担当者アンケート」を実施し、監査担当者から寄せられた意見により業務を点検し、翌年度以降の業務に反映している点は評価できる［1120g］。
留意点
特になし

2023 年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	総務課
人員構成	専任・嘱託 10 人（出向・兼務を含むため主務は 5 名）、派遣・契約事務補助員 2 人（いずれも兼務者）

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	課内の ICT リテラシーの向上・WEB 会議の在り方の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
総務課はバックオフィスであるとともに、学園構成員にとってのサービス部門であるとの視座に立ち、業務にあたっている。特に ICT 化とは親和性が高く、全学的な波及効果も大きい。Ⅱ-１-(１)で具体例は示すが、業務遂行に際しては、グループウェア、Zoom、iPad、Google、アプリ、動画を極力活用しながら「学園構成員に対するサービスの向上」と「業務の効率化・省人化」という両輪で業務改善に努めており、課内の改善意識は非常に高い。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	理事会・評議員会の適切かつ合理的な運用方法の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
改正私学法（2020 年 4 月 1 月施行）、寄附行為、管理運営規則との適格性・適法性を常に意識し、議題の順番、議事録における文言一つひとつにも留意している。 2021 年 6 月の文部科学省から出された寄附行為作成例改正に対応するべく、2022 年 2 月 28 日に寄附行為改正に係る認可申請を受け、2022 年 5 月に開催された評議員会・理事会からは、その開催通知の発出と出欠席のとりまとめを電磁的方法へと変更し、運営業務を大きく省力化した。[1120a,1120b,1120c] また、外部理事、外部評議員に対し、迅速・果断な意思決定を促すべく、学園における感染症対応の状況、入試・就職等をはじめとする、学事に関する情報提供に努めている。[1120d] 理事会は学校法人の最高意思決定機関であり、合議制によって業務執行がなされる。本学の外部理事は様々な分野で活躍中の卓越した有識者を選任し、理事会の議論深化に大きく寄与することで、理事会の意思決定を強化している。[1120e]	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
①ICT 化推進による業務の効率化・省人化
②学園構成員へのサービス向上

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	S
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			

現状説明

(1) 管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。

※凡例：ICT推進に係る改善活動を［ICT］、サービス向上関連に係る改善活動を［ｻｰﾋﾞｽ］の表語で示す。

■電子申請化の促進［ICT］［ｻｰﾋﾞｽ］

これまでにも多くの様式・届出の電子申請化を行ってきたが、2022年度は新たに慶弔届、ゲストルーム利用申請の電子化を導入した。

「慶弔届」・・・組織が異なる関係上、同一内容を2枚の届出用紙（学園用・互助会用）に記入する必要があったが、学園様式を電子申請化し、オプトインをとった上で、その届出内容を互助会に第三者提供する形とし、互助会様式を廃止するとともに、承認印フローの見直しも行った。年間100件前後の届出があるが、約50%が電子申請しており、特に立地を別にする併設校からの申請に対しては、最終承認までのリードタイムが大幅に改善した。[1120f]

「ゲストルーム利用申請」・・・年間60件前後の利用申請があるが、電子申請率は100%を達成した。合わせて業務の整流化も行い、「利用ルール説明」「受付」「予約照会」「支払い」「管理人との予約状況の共有」「申請者へのフィードバック」「支払い完了確認」の大部分を自動化するとともに、総務課の介在工数を極小化した。[1120g]

■福利厚生施設の派遣社員への対象拡大［ｻｰﾋﾞｽ］

同一労働同一賃金の時流を踏まえ、学園が提携している福利厚生施設の利用対象者を、派遣社員まで拡大させた。[1120h]

■総務課FAQの策定・公開［ｻｰﾋﾞｽ］

各種手続き（申請・届出）を担当するバックオフィスであることを踏まえ、学園構成員に対するサービス向上並びに問い合わせ業務の省力化を目的に、2022年7月28日に総務課FAQを策定・公開した。これを受け、総務部人事課においても、「人事課FAQの策定・公開」につながった。[1120i]

■通学バスにおけるサービス向上等施策［ｻｰﾋﾞｽ］

2022年3月に実施されたJR中央本線のダイヤ改正により、名古屋方面から神領駅に到着する8時台の電車が1時間あ

たり3本増加するとともに、駅に到着する電車の間隔が短くなり、改札から吐き出される人数が、バスに乗車できる人数を大きく上回り、限定的な時間であるものの、改札付近の混雑につながった。自由通路内における安全対策とバス利用者のサービス向上の観点から、待合列の適正化・伸長、整列用カラーコーンの小型化、誘導員の増員、高蔵寺線の配車等の対策を行い、待合時間の短縮を行った。[1120j]

・郊外立地によるディスアドバンテージを少しでも改善するべく、運輸局への認可申請を行い、2023年4月6日より、バス降車場運用の一部変更を行った。これによりバス利用者に対するサービス向上を図るとともに、正門

付近における歩行者×自動車の錯綜の低減による安全向上を目指した。なお、本運用変更に際しては経費増が発生するものの、これまでに実施してきた経費削減策により、グロスのコスト増を行うことなく実現した。
[1120k]

■動画の活用［ｻｰﾋﾞｽ］
WEB 会議の設営方法（中会議室 ver)、互助会観劇会（PiTiPo）のログイン、山荘施設紹介について、HowTo 動画を作成。視覚的かつ容易に理解できる工夫を行った。[1120l,1120m,1120n]

■WEB 会議のノウハウの共有［ICT］［ｻｰﾋﾞｽ］
2022 年 6 月 13 日に開催された第 30 回職員ゼミナールにおいては、総務課が講師を務め、中会議室における WEB 会議の事例紹介を行い、組織内におけるノウハウの共有と伝播に努めた。[1120o]

■新穂高山荘の利用促進［ｻｰﾋﾞｽ］
複雑怪奇であった料金体系を整理し、パンフレット、HP を大幅に改訂した。また、利用促進に資するべく、施設紹介動画の制作、パンフレット・HP の刷新を行い、教学部門、併設校、同窓会、幸友会と連携し、広報強化を行った。[1120p]

■課長印（認印）の電子印化［ICT］
総務課員は在宅勤務者を含めると、計 5 箇所の場所で勤務しており、情報共有、意思決定のスピードの確保が課業遂行の重要な要素となる。その一つとして課内文書における課長印等（認印）の電子印化を行った。[1120q]

■職員宿舎におけるサービス向上・住環境向上施策［ｻｰﾋﾞｽ］
・職員住宅住民専用駐車場の開設[1120r]
・宿舎への帰路における転倒事故を受け、携帯ライトを全住民に配布［1120s]
・宿舎への AED の設置［1120t]
・無料レンタルサイクルの導入［1120u]

■10 年永年勤続者への記念品の選択制導入［ICT］［ｻｰﾋﾞｽ］
福利厚生制度の一つである、永年勤続者への記念品に選択制を導入するとともに、この記念品の希望聴取と出欠席のとりまとめについても WEB フォーム経由に変更し、業務の省力化を図った。[1120v]

■互助会事業の充実［ｻｰﾋﾞｽ］
・観劇会システム（PiTiPo）利用促進。旅行クーポンの販売[1120w]
・アフターコロナにおける新たな忘年会事業の在り方として、マリオットホテル特別クーポンを導入[1120x]

■人的資源（組織・個人）に係る改善活動
課内における学外主催の SD プログラムへの参加回数を 2021 年度：12 回⇒2022 年度：29 回へと向上させ、自ら学ぶ姿勢を醸成した。また、SD の一環として「育休後アドバイザー資格」を 3 名が取得した。[1120y]

業務の継続性の確保に向け、業務のマニュアル化を推奨した。「自身の業務を記録」⇒「(ビジュアル重視の）マニュアル化」⇒「他者に発信」を一連の流れとし、業務移管の容易化を図った。[1120Z]

・2022 年 6 月より学生インターンシップ制度を導入した。インターン生（学生目線）からの提案を課業に生かすとともに、職員の指導力育成、若い力による組織の新陳代謝の促進を図った。[1120Za]

■経費削減に係る改善活動
・2022 年 4 月から
①通学バス整理員の業務委託先変更（年間 400 万）
②公用車の契約走行距離契約の見直し（年間 30 万円）

・2023 年 4 月から（予定）

①併設校通学バス（セントラルサービス社）への中古車両の導入（年間600万）
②土日祝日における1号館受付警備員の廃止（年間330万）
③一昨年対比で専任職員1名減、派遣社員1名減での業務遂行（人件費としての観点）

■「中部大学ガバナンス・コード」の策定と公表
学校法人におけるガバナンス機能強化に向けた自主的行動基準として「中部大学ガバナンス・コード」を策定し、2023年4月1日に公表した。私立大学等経常費補助金の傾斜配分の要素となる「教育の質に係る客観的指標」において、加点要件を満たした。加えて、さらなる加点要件（最高点）を満たすために、ガバナンス・コードの遵守・適合状況の点検及びその結果の公表に向けた準備を進めている。[1120Zb]

(2) 委員会活動の検証
・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

開催に際しては、必ず決裁の手続きを踏んでいる。また、議事録の役割は単なる記録に留まらず、良質な議事録は論点整理、意思決定のスピードにも資する重要なツールであるとの認識に立ち、学園において最も所管する会議体が多く、そのボリュームは、比肩する部署はないが、議事録の内容充実と確定までのスピード感は強く意識している。[1120Zc]
なお、他部署との打ち合わせにおいては、予めグループウェアにより資料と検討事項を共有し、「打ち合わせの場は意見をすり合わせる場」との認識のもと、会議に係る時間・ロードの削減に努めている。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	・前例を前例としない積極的な改善（ゼロベース思考） ・経費削減活動 ・自発的に学ぶ姿勢をもったメンバーとそれを支える部の組織風土

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No. 1120	さらなる業務改善、サービス向上
今後の改善・向上方策	
大学職員の業務は質・量ともに増大傾向にある一方で、今後の私学を取り巻く厳しい経営環境を踏まえると、如何に少ない人数で高パフォーマンスを発揮するかに尽きる。それには、①個人のパフォーマンスを上げるか、②業務を切り捨てるか、③ICTによる効率化を図るかの3択しかない。次年度は業務の本質やサービス性を損なわないことを前提に、業務の精査を行う。キーワードは「スクラップ」「統合」「代替」「簡素化」。これにより、業務の本質を見極め、形骸化した業務は切り捨てていき、本質的に必要な業務に注力するためのバッファを生み出すことを方向性とする。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・次期改正私学法への対応（2025年4月1日施行） ※制定以来、過去最大の大改正 ・業務改善（「スクラップ」「統合」「代替」「簡素化」を重視）

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	理事会開催通知（2022.5.27）	○
1120	b	理事会開催案内（2022.5.27）	○
1120	c	理事会出欠席回答フォーム	○
1120	d	2022年度理事会・評議員会資料	△
1120	e	2022年度理事会議事録	△
1120	f	「慶弔届（学園所定）」の様式変更及び電子申請の導入について	○
1120	g	職員宿舎ゲストルーム並びにホテルプラザ勝川の利用に係る受付業務の電子決裁導入及び業務フローの見直しについて	○
1120	h	学園提携施設の利用優待範囲の拡大について	○
1120	i	「総務課FAQ（よくある質問）」の策定及び公表	○
1120	j	バス運行に係る打ち合わせ資料（2022.10.25）	○
1120	k	通学バス降車場の一部変更（事務連絡会資料）	○
1120	l	Web会議設営方法（中会議室）動画 https://drive.google.com/file/d/1-Ril7pM4yUHapqnben4sKflVMWZjINBo/view	△
1120	m	PiTiPoログイン方法動画 https://drive.google.com/file/d/1x4gEJutp3hvA9B2ZGnlZCYdapIfrajkn/view	△
1120	n	中部大学新穂高山荘案内動画 https://www.youtube.com/watch?v=lkVyJDDJUao&t=14s	△
1120	o	職員ゼミナール資料（2022.6.13）	○
1120	p	新穂高山荘リーフレット（新・旧）	○
1120	q	職員宿舎週報	○
1120	r	新規駐車場の設置について（安全部会資料）	○
1120	s	携帯用懐中電灯配布のお知らせ	○
1120	t	職員宿舎における自動体外式除細動器(AED)設置に関する要望書（安全部会資料）	○
1120	u	共同自転車の利用開始について	○
1120	v	学園創立記念日表彰式 出欠回答フォーム・10年記念品リスト	○
1120	w	PiTiPo旅行クーポン	○
1120	x	中部大学互助会オリジナルクーポン（2022.11.28配付）	○
1120	y	2022年度ＳＤ活動報告書	○
1120	Z	マニュアル各種	○
1120	Za	総務課インターンシップの導入について	○
1120	Zb	中部大学ガバナンス・コードの策定・公表、遵守状況の点検について（部長会資料）	○
1120	Zc	各会議議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　学園構成員にとってのサービス部門として、業務の ICT 化に取り組むとともに、福利厚生施設の派遣社員への対象拡大や通学バスの運行における混雑回避策の策定・実施など様々なサービス向上に努めている［1120f～1120x］。
長所・特色
1120　業務の持続性の確保に向けて、課として業務のマニュアル化を進めていることは評価できる［1120z］。
留意点
特になし

2023年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	人事課
人員構成	専任・嘱託　11人、　派遣・契約事務補助員　0人

基準11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	全教職員に対する、ハラスメント防止研修の継続的な実施およびハラスメント防止啓発資料の改訂
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
・事務職員を対象とした職員研修において、ハラスメント対策をテーマに取り上げ、その重要性を認識してもらうことに努めた[1120a]。また高等教育推進課と共同してFD・SD委員会主催による第1回FD・SD研修会（テーマ：お互いを尊重し、守る為のハラスメント研修）を全学の教職員を対象に開催し（専任教職員の70%超が参加)、ハラスメントへの理解を深める機会を全学の教職員に展開することができた［1120b]。 ・ハラスメント防止啓発資料の見直しを行い、学生・教職員を始めとする所属員が手に取りやすい資料に改訂した［1120c]。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
「充実した教育・研究を目指した教員の活用（適正人件費を目指した人事制度の導入)」について具体的な検討を行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			

現状説明
1120　今年度のハラスメント対策委員会は、1回の開催に留まった。2023年2月に開催した委員会では開催および議事録の作成に関する手続きは適切に行なっており、また2021年度から検討してきたハラスメント防止啓発資料を4年ぶりに改訂することができた。同資料についてはカウンセラーを始め、学生・教職員・対策委員の意見を踏まえて作成し、所属員が手に取りやすく、相談者が相談しやすい資料に改訂できた。改訂後も学生・教職員にアンケートを行い、その意見を反映することでより良い資料に更新していく予定［1120b］［1120d］［1120e］。 1120　安全衛生委員会の下部組織（実働部隊）である衛生部会においては、教職員、学生・生徒の健康管理・健康増進等に関して検討・議論し、部会で決定した事項を安全衛生委員会に上程した。また産業医、衛生管理者による職場巡視を積極的に行うことにより職場環境の改善に取り組んだ。［1120f］。 1120　事務職員の昇進・昇格については、職能資格規程に基づき5月に開催する事務系人事審査委員会の議を経て理事長が決定された[1120g]。 1120　人事戦略タスクフォースにおいて検討・提案された事項のうち、教職員の多様な働き方を実現することを目的に「雇用年限延長制度およびセカンドライフ応援制度」について具体的に制度設計を行った。各種会議、教職員組合、従業員代表者（業務懇談会）への説明後、運営協議会の議を経て本改定に至ることができた[1120h]。 1120　多様な人材が活躍できる職場環境の充実の一つとして障がい者雇用の促進を図り、2022年度には雇用促進と障がい特性を活かした適正配置を目的に、業務委託による障がい者就労オフィスの開設を検討した［1120i］。 1120　SD活動の一環として、全教職員を対象とした職員ゼミナール（任意参加）を2回開催した［1120j］［1120k］。 1120　2026年度の人事システム更新に向けて、最適なシステムの選定準備を行う［1120l］。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	事務系人事審査委員会では、事務職員の担当する職務の成果とその遂行能力を考課し、これにもとづいて 能力開発と人材育成を促進し、かつ昇格、昇進、配置および期末・勤勉手当などの処遇の適正化を図っている[1120g]。
項目No.1120	2022年度に制度設計した「雇用年限延長制度およびセカンドライフ応援制度」は、学園ビジョン2021-2025を踏まえ教職員の多様な働き方を実現すること目的とし、人材の若返りとシニアの活躍の両立、人材確保、働き方の選択に繋がる制度改正と言える[1120h]。
項目No.1120	業務委託による障がい者就労オフィスの開設は、委託先に学園のサテライトオフィスを開設し、学園直接雇用の障がい者（契約事務補助員）が委託先スタッフのサポートを受けながら、学園の業務（主に印刷・製本・梱包）を行う新規事業で、障がい者雇用の促進すなわち社会的責任を果たすものと言える［1120i］。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	全教職員に対するハラスメント防止研修の継続的な実施およびハラスメント相談窓口担当者・相談委員を対象とした研修の実施
今後の改善・向上方策	
有用な研修等をリサーチしてｅ－ラーニングと併用して活用する。	

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	2年連続して行った人事制度改正（教職員（正規・非正規）の諸手当改定、雇用年限延長制度およびセカンドライフ応援制度の創設）に対応し、適正な運用を遂行する。

今後の改善・向上方策
担当者の属人化を極力防止し、課内全体業務として課員が当事者意識を持ち、一丸となって対応にあたる。 制度改正に対応した教職員ごとの個別管理を的確に行う。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
2026 年度の人事システム更新に向けて、最適なシステムの選定準備を行う。 ・近隣大学へのヒアリングを実施。 ・新人事システムのコンテンツ活用範囲の確認および他のシステムとの連携を確認。 ・業者によるプレゼンおよび選定。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	人事課 1120a：2022 年度職員研修について.pdf	○
1120	b	人事課 1120b：FD・SD_1st_seminar_20230125.pdf	○
1120	c	人事課 1120c：ハラスメント対策リーフレット_ol_k.pdf	○
1120	d	人事課 1120d：ハラスメント対策委員会 資料_202302211330.pdf	△
1120	e	人事課 1120e：2022 年度 第 1 回ハラスメント対策委員会 議事録.pdf	△
1120	f	人事課 1120f：2022 年度　安全部会、衛生部会の目標・活動計画.pdf	○
1120	g	人事課 1120g：人事考課実施要綱.pdf	○
1120	h	人事課 1120h：お知らせ　人事制度の改正について 中部大学 （httpswww2.chubu.ac.jpfaculty_staffnewsdetail-5254.html）.pdf	○
1120	i	人事課 1120i：起案　障がい者雇用における就労環境の一部外部委託について(伺い).pdf	△
1120	j	人事課 1120j：第 30 回職員ゼミナール実施要項.pdf	○
1120	k	人事課 1120k：第 31 回職員ゼミナール実施要領.pdf	○
1120	l	人事課 1120l：学校法人中部大学様_インフラ保守サービスのご紹介.pdf	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 人事考課実施要綱および職能資格規程に基づき事務系人事審査委員会の議を経るなどして、事務職員の昇進・昇格等が決定されていることは、適切な業務遂行である。また、様々な課題に対して対策委員会、タスクフォースにより持続的な改善・向上の取り組みがみられる[1120a][1120b][1120c][1120d][1120e][1120f][1120g]。
長所・特色

1120 学園ビジョン 2021-2025 を踏まえ教職員の多様な働き方を実現することを目的とした新たな人事制度である「雇用年限延長制度およびセカンドライフ応援制度」が設計されたことは、評価できる［1120h］。
留意点
特になし

2023年度（対象：2022年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	出張旅費センター
人員構成	専任・嘱託　６人、　派遣・契約事務補助員　１人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	出張業務について、引き続き、教職員へのサービス向上を目指す。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
・窓口の一元化により出張申請から旅費の支払いまでにかかる時間が短縮されサービス向上につながり、また出張・旅費規程、ならびに出張の手引きについて、時勢に沿った柔軟な改定を行った[1120d][1120e]。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	出張時の安全・安心を確保するため、新型コロナの感染状況や外務省からの通知（海外の危険情報）等に注視し、積極的な情報発信に努める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
・外務省からの通知（海外の危険情報）や日本政府からの行動制限の発出に従い、出張旅費の手引を随時改正し、適切な情報発信に努めた[1120e]。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・出張時の安全・安心を確保するため、新型コロナの感染状況や外務省からの通知（海外の危険情報）等に注視し、積極的な情報発信に努める。 ・出張申請等について、ＩＣＴを用いた、さらなる効率化を目指す。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			

現状説明
・出張旅費センターは、WGから発足したボトムアップ型の組織で、大学、併設校、法人にまたがるサービス部門として、出張業務を集約させ事務の効率化を目指している[1120a][1120b] [1120c]。 ・窓口の一元化により出張申請から旅費の支払いまでにかかる時間が短縮されサービス向上につながり、また出張・旅費規程、ならびに出張の手引きについて、時勢に沿った柔軟な改定が可能となった[1120d][1120e]。 ・2022 年度は特に、新型コロナの感染状況や外務省からの通知（海外の危険情報）、日本政府からの行動制限等に注視し、出張時の安全・安心を確保するために積極的な情報発信に努めた。また、世界的にワクチンが普及したこともあり、海外出張含め出張件数が増加したが、処理にかかる時間と精度を落とすことなく対応できた[1120d][1120e]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1120	出張業務を集約させることで事務の効率化につながっており、大学、併設校、法人にまたがるサービス部門として機能している。
項目 No.1120	出張業務に特化した部署であるため、外部資金のルールや世の中の状況に応じ、関連部署と連携した柔軟な対応が可能。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	2022 年 6 月に研究支援部より実施された「研究活性化アンケート」において、研究時間の確保のための要望として、事務業務の負担軽減というコメントがあり。 これを受け、出張・旅費規程、出張の手引等、出張処理の運用ルールについて時勢に沿った改定を目指す。
今後の改善・向上方策	
・クラブ関係の出張処理、航空機利用時の証憑書類、電子マネーの使用等について、他大学の状況を参考に運用ルールを検討。 ・運用されていない条文や文言を精査。 （例）出張・旅費規程　第 7 条第 2 項「普通急行料金」、職員の外国出張旅費に関する規程　第 15 条「新東京国際空港」等	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	出張手続きの ICT 化
今後の改善・向上方策	
・新型コロナ感染症が５類へ移行されることに伴い、出張件数が増えることが予想される。迅速な処理を目指し、ガルーンを用いた電子申請を検討。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
項目 No.1120　出張・旅費規程、出張の手引等、出張処理の運用ルールについて時勢に沿った改定 ・クラブ関係の出張処理、航空機利用時の証憑書類、電子マネーの使用等について、他大学の状況を参考に運用ルールを検討。 ・運用されていない条文や文言を精査。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	A	出張旅費センター　1120a：Ver.5_出張旅費WG最終報告 210125（1）	○
1120	B	出張旅費センター　1120b：（運営協議会資料）出張旅費センターの設置について_210119	○
1120	C	出張旅費センター　1120c：（大学協議会）出張旅費センターの設置について_210119	○
1120	d	出張旅費センター　1120d：活動報告 20230502	○
1120	e	出張旅費センター　1120e：出張の手引き_20220701_ver.7.3_修正版	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 大学、併設校、法人のサービス部門として、出張業務を集約することで事務の効率化を進めている[1120a][1120b][1120c]。窓口の一元化により出張申請から支払いまでが短縮され、サービス向上につながり、出張・旅費規程、出張の手引きについて、時勢に沿った柔軟な改定が可能となった[1120d][1120e]。
長所・特色
1120 出張業務を集約することで事務の効率化ができ、サービス向上につながり、出張・旅費規程、出張の手引きについて、時勢に沿った柔軟な改定が可能となったことが評価できる [1120a][1120b][1120c][1120d][1120e]。
留意点
特になし

2023 年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	財務部財務課
人員構成	専任・嘱託　4 人、　派遣・契約事務補助員　1 人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.	4 月～5 月に集中する業務(予算設定、決算、補助金申請)の負荷分散[1120b]。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
年度末始めから決算確定までの繁忙期(4 月～5 月)の業務の負荷分散は、定められた期限があるためなかなか難しいが、隔週開催する財務部・課による定例会にて該当業務の進捗状況や締め切り、問題点などを共有しながら、場合によっては少しでも余裕のある他の課員が一時的にサポートに回るなど、話し合いの上で調整を行って対応している。また、そのためにも普段から全員が課の業務の全体像を把握できるよう努めている。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
Ⅰ．予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みづくりの検討 Ⅱ．学園ビジョン財務計画実行に向けた試案

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4 段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120 財務課が担当する業務は、主に予算・決算・補助金申請・税務である［1120a］。これらの業務に遺漏なく対応するため、業務一覧を作成して計画的に業務を進めている［1120b］。その他、財務課の業務特性として、年次業務が多いことが挙げられる。業務の習得に時間を要するため、各業務には複数の担当者を設定し、課の業務が継続できなくなるリスクを抑えるように努めている。また、課全体の業務カバー率を数値化し、業務対応可能状況の「見える化」に取り組んでいる［1120b］。また、業務一覧は毎年見直しを行い、全員が課の業務の全体像を再確認するとともに、対応可能な業務の拡大に繋げている。 1120 予算原案及び予算編成方針案の検討を目的とした予算・財政検討委員会は、理事長に予算原案等を提出する前に開催され、委員により検討されている［1120c］［1120d］［1120e］［1120f］。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	担当業務一覧による業務把握[1120b]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	予算執行による効果を分析する仕組みの検討。
今後の改善・向上方策	
予算申請額と実績の乖離を検証し、各部署における計画的な予算執行の意識の向上を狙う。特に新規の経常的な予算申請案件について、実績額を検証して翌年度上限額に反映する。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
Ⅰ．予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みづくりの検討 Ⅱ．学園ビジョン財務計画実行に向けた試案の策定

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	財務課事務分掌2022	○
1120	b	財務課業務一覧・担当2022	○
1120	c	予算の編成及び執行事務細則	○
1120	d	予算・財政検討委員会細則	○
1120	e	予算・財政検討委員会議事録(2022年度第4回)	●
1120	f	予算・財政検討委員会議事録(2022年度第1回/第2回/第3回)	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　事務分掌および規程に則り、委員会が適切に運営されている。また予算・決算資料作成等の繁忙期の各担当業務の負荷分散が業務一覧を基に進められている[1120a][1120b]。
長所・特色
1120　業務一覧により、業務分担が明確になっている。またその一覧に業務量、重要度等のレベルが数値化されており、業務の平準化が図られていることは評価できる[1120b]。
留意点
特になし

２０２３年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	財務部財務課（旧会計課分）
人員構成	専任・嘱託　　5人、　派遣・契約事務補助員　2人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	固定化する各担当業務のシェア（複数担当者の配置、ローテーション、マニュアル共有、等）
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
人事異動による構成員の変更に伴い、課内担当業務の見直しを実施。 各担当者間とチーム毎における業務の負荷調整を行うと同時に、各々の業務マニュアルの共有化を継続的に推進する。 また、課内ローテーションを行うと共に各業務を複数名で共有することにより、各人が幅広い業務経験を積むことを引き続き継続していく。[1120a、1120b]	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
１．窓口業務の軽減化（2020年度～継続） ２．貸費奨学費データの改善・効率化（2020年度～継続） ３．資金運用（有価証券）データの改善・効率化（2020年度～継続） ４．出納業務 （消費税インボイス制度の準備・電子取引書類の対策準備（検討））

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。			

	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
1120(1) 現預金の入出金については、「入出金明細(金融機関システム)・取引照合表(金融機関発行)」により日次管理を行い、「現預金残高月計表」にて月次報告を実施。学納金等の収納については、学則他諸規定に則り収納処理を行い、月毎に「授業料等納入状況報告書」により報告を実施し、管理を行っている。 また、資金運用等については、資産運用規程に基づき運用を行い、「取引残高報告書」にて月次管理を実施し、リスク回避に備えて四半期ごとに各証券会社から格付け及び時価情報を収集し、「長期運用資産について(報告)」にて報告を実施し、管理を行っている。[1120c,1120d] 1120(2) 三浦記念基金及び70周年記念奨学基金の各委員会については、大きな制度変更等が無い限り、稟議書による書面開催としている。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	金融機関の資金管理システムによる日々の入出金管理と金融機関発行の取引照合表による月次管理
項目No.	資産運用における有価証券の格付け及び時価情報（各証券会社毎）の定期収集

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	業務効率化の推進
今後の改善・向上方策	
現金支給の振込化やデータベース管理（貸費奨学金・資産運用）の促進による業務の効率化を志向することにより、チーム並びに課員の負荷調整や職域拡大に繋げることとする。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
１．入試制度の変更に伴う学納金システムの見直し検討 ２．窓口業務の効率化推進 ３．貸費奨学金データの改善・効率化 ４．資産運用（有価証券）データの改善・効率化 ５．出納業務 （消費税インボイス制度の準備・電子取引書類の対策準備（検討））

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		

1120	a	2022 年会計課事務分掌	○
1120	b	2022 年度財務部会計課担当業務分担	○
1120	c	有価証券時価情報	△
1120	d	有価証券格付け一覧	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　事務分掌および規程に則り、学納金等収納処理・管理、資金運用の管理・報告を適切に行っている。業務分担の見直しを進めている[1120a][1120b]。
長所・特色
1120　データベース管理の促進等、継続して業務改善・効率化に取り組んでいる[1120b]。
留意点
特になし

2023年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部事務室
人員構成	専任・嘱託　4人、　派遣・契約事務補助員　0人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	コロナ感染状況の改善から教授会も対面での開催に戻って行きつつあるが、ペーパーレス化を存続させるために資料送信の継続とスクリーンへの投影を検討し、会議が円滑に進むように工夫していきたい。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
2022年4月の教授会から対面開催となったが、ペーパーレス化を続行し、議事リストと執行部分以外の資料は印刷せず、データ送信を行い、出席者には持参したパソコンで資料を閲覧するという形式で協力していただいた[1120a]。送信できない内容のデータはスクリーンに投影し、数枚を印刷し、回覧した後、回収した。	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	教授会等をオンラインとメール審議の併用で開催するようになった結果、ペーパーレス化を進めることができたが、その反面、送信資料が多大な量になったため、短時間でできるだけ精選し減らすようにしていく方法を検討する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
複数の会議で同じ資料がある場合は、１会議の報告として項目をあげ、資料が重複しないように注意したが、膨大な資料の量と教授会と同日の会議資料であることにより、すべての資料において重複を避けることはできなかった[1120b]。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
新型コロナウィルス感染の改善に伴い、国際関係学部の教育研究活動・管理運営が以前の体制に戻りつつあるので、この２年間で対策を講じた方法を活かしながら、円滑に行われていくよう学部執行部との情報共有、サポート体制をさらに充実させ、取り組んでいく。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」

も踏まえて記入してください。
　4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 　・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
事務分掌に則り、業務を適正に遂行している［1120e］。国際関係学部事務室は、職員数が少ないため、事務室の運営に関する会議等は特に設けていないが、常に情報共有、連携に努め、業務の効率化・合理化を目指して改善点を模索しながら業務にあたっている。 国際関係学部の教授会、主任会議の開催通知、議事録作成は適切に行っている。また、学部の教育研究活動・管理運営が的確かつ円滑に行われるために、主任会議に加え、不定期で必要時に行われた執行部のミーティングやメールでの打合せにも事務長と事務室員が同席し、毎回の教授会の議事確認のほか、必要に応じて提案も行った。また、国際関係学部教授会、主任会議においては、学部長の求めにより、事務長からも適宜報告を行った[1120c・1120d]。				

2. 長所・特色
　各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	学部の主任会議をはじめとして、学部執行部をメンバーとしたミーティングやメールによる打合せを必要に応じて開催し、事務長と事務室員も同席したため、学部運営、授業関連、学生対応等について綿密に連絡を取ることができた[1120d]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策
　各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	教授会開催時間の短縮及び資料の精選
今後の改善・向上方策	
教授会は対面開催に戻ったが、資料のペーパーレス化を続行し、執行部以外の構成員には印刷せずデータ送信を行っている。しかし、教授会の開催時間は、早い場合でも1時間30分、通常は約2時間を要している。資料の量が多いことも長時間の理由の一つとなっているため、さらに資料の精選を進めるなど、執行部の先生方と相談し、検討を進めたい。	

4. 今年度の重点目標
　自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
新しい執行部体制のもとで、国際関係学部の教育研究活動・管理運営が円滑に行われていくよう執行部の先生方とのコミュニケーションを密に取りながら、情報共有、サポート体制のさらなる充実を目指し取り組んでいく。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	2022年度第1回～第13回国際関係学部教授会開催通知	○
1120	b	2022年度臨時・第1回～第13回国際関係学部教授会議事リスト	○
1120	c	2022年度臨時・第1回～第13回国際関係学部教授会議事録	○
1120	d	2022年度第1回～第11回国際関係学部主任会議議事録	○
1120	e	事務分掌（国際関係学部事務室）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　事務分掌に則り、教授会、主任会議の開催、議事録作成について適切に運営されている［1120C］［1120d］。
長所・特色
1120　コロナ禍への対策経験を活かして、会議のペーパーレス化を継続している［1120a］。
留意点
特になし

２０２３年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部事務室
人員構成	専任・嘱託　４人、　派遣・契約事務補助員　１人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	教授会、学部内諸委員会のペーパーレス化。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
・主任会以外の教授会・専攻主任連絡会・研究科委員会のペーパーレス化を実現。[1120b]	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	部内業務における年度重点目標設定と課題の共有の徹底、および対策の実行。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
業務の管理運営と質向上を目的に担当業務分担表を作成、共有して業務の見える化を図り、フォロー体制を構築した。また適宜、点検と評価を行い継続的に生産性の向上に努めている。[1120c]	

Ⅱ．自己点検・評価

0．事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
アフターコロナへの学生サポート強化、事務室運営の効率化

1．現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証			

	・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
1120　年度毎にキャリア開発シートをもとに考課面接を行い目標と課題を共有し、持続的に改善・向上の取り組みを行っている[1120a]。 1120　主任会・教授会・専攻主任連絡会・研究科委員会資料のペーパーレス化による情報伝達の迅速化、および利便性の向上を図った[1120b]。 1120　教授会、研究科委員会、主任会および専攻主任連絡会の運営は規程に則り適切に行っている [1120d] [1120e] [1120f] [1120g]。議事録は事務で作成し、議長の決裁を受けている[1120h] [1120i] [1120j] [1120k] [1120l] [1120m]。 1120　人文学部 FD・SD 委員会、紀要編集委員会、自己点検・評価委員会、中・高教職支援委員会の運営は規程に則り適切に行っている[1120n] [1120o] [1120p] [1120q]。 1120　人文学部主任会で公表する退学理由の集計等により退学者の実態を把握し各学科で共有している[1120ｒ]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1120	主要会議ペーパーレス化による情報伝達の迅速化、および利便性の向上を図った。
項目 No.1120	人文学部主任会で公表する退学理由の集計等により退学者の実態を把握し各学科で共有している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	人事異動等に伴うリスク管理

今後の改善・向上方策
1120　昨年度フォロー体制を構築したが当該年度中に 2 名の契約事務補助員が退職したことをうけて、フォロー体制が崩れた。退職・異動に伴うリスク管理として担当業務の一部ローテーションを実施し、人員の入れ替わりがあっても持続的に業務が遂行できる体制と業務の平準化を構築。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・事務室の更なる効率化、修学上配慮学生へのサポート

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	キャリア開発シート	△
1120	b	2022 年度主任会・教授会・専攻主任連絡会・研究科委員会資料アップロード通知	○
1120	c	2022 年度人文学部業務分担計画表	△

1120	d	中部大学人文学部教授会規程	○
1120	e	中部大学大学院国際人間学研究科委員会規程	○
1120	f	人文学部主任会運営申し合わせ	○
1120	g	中部大学国際人間学研究科専攻主任連絡会運営申し合わせ	○
1120	h	2022 年度人文学部教授会議事録	○
1120	i	2022 年度国際人間学研究科委員会議事録	○
1120	j	2022 年度人文学部主任会議事録	○
1120	k	起案_2022 年度第 13 回人文学部教授会議事録	○
1120	l	起案_2022 年度研究科委員会第 1 回議事録	○
1120	m	起案_2022 年度人文学部第 11 回主任会議事録	○
1120	n	人文学部 FD 委員会規程	○
1120	o	人文学部紀要編集委員会規程	○
1120	P	人文学部自己点検・評価委員会規程	○
1120	q	人文学部中・高教職支援委員会規程	○
1120	r	人文学部 退学・休学理由表および退学者数推移と理由（20230501 現在）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　学生サポート強化、業務効率化を目指し常に業務改善に取り組む様子がうかがえ評価できる[1120a][1120b][1120c][1120r] 。
長所・特色
1120　様々な会議において、情報伝達の迅速化を意識した上でペーパーレスとしたことは評価できる［1120b］ 。また、学生サポート強化に向けて主任会で退学者の実態を把握し各学科で共有していることは評価できる［1120r］ 。
留意点
特になし

2023　年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部事務室
人員構成	専任・嘱託２人、　派遣・契約事務補助員　２人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	事務室構成員が自主的に業務改善・向上を図るための仕組み作り。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
業務の管理運営と質向上を目的に担当業務分担表を作成、業務内容の共有を図り、フォロー体制を構築した。また適宜、点検と評価を行い継続的に生産性の向上に努めている。[1120a]	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・学部内規程・申し合わせの整理、整備 ・業務セキュリティの向上 ・コロナ対策としての業務環境の整備

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 　・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120 （1）年度重点目標の設定に当たっては、事務分掌等に則り目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っている。構成員とは年度始めに目標設定をし、適宜成果の確認を行い、業務内容の把握による業務改善、再構築に取り組んでいる。[1120a] 1120 （2）教授会・研究科委員会の開催は規程［1120b］［1120c]に従って行っている。 議事録案は事務で素案を作成し、議長の決裁を受けたうえで、主任会で回覧している。その他、審議を要する事項は、主任会の申し合わせ[1120d]により、必要な委員会に付託し、主任会、教授会の報告・承認手続きを経たうえで、議事録に記録している。教授会・研究科委員会通知、議事および資料はＰＤＦで作成し構成員にデータで配付、ペーパーレス化、情報伝達の迅速化、利便性の向上を図った。[1120e]

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	(2) 教授会・研究科委員会通知、議事および資料はＰＤＦで作成し構成員にデータで配付、ペーパーレス化、情報伝達の迅速化。[1120e]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	業務内容の把握による業務改善、再構築。
今後の改善・向上方策	
業務内容表を更新し、内容については、課内で確認、改善を進めていく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・学部内規程・申し合わせの整理、整備 ・管理運営業務の構築（業務内容把握、フォロー体制構築）

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	応用生物学部事務室業務分担表	○
1120	b	応用生物学部教授会、応用生物学研究科委員会規程	○
1120	c	開催起案、議事録作成にかかる起案・決裁文書	△
1120	d	応用生物学部・研究科主任会申し合わせ	○
1120	e	教授会・研究科委員会議事	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　事務分掌および規程に則り教授会、委員会が適切に運営されている。また資料のデータ化による会議のペーパーレス、情報伝達の迅速化等の業務改善・向上に取り組んでいる[1120e]。
長所・特色
1120　年間業務一覧により、各担当者の業務分担が明確になっている。また、その中で各業務の詳細スケジュールが明記されており、進捗管理が適切に行われている[1120a]。
留意点
特になし

2023 年度（対象 2022 年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	国際・地域推進部　国際連携課
人員構成	専任・嘱託　8 人、　派遣・契約事務補助員　1 人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ. 課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 1120	新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きつつあり、留学生派遣・受入れが再開しつつあるが、2 年間対面での交流が止まっていたため、先輩が後輩に留学体験を語ったり、留学生寮の先輩 RA（日本人学生スタッフ）が後輩 RA に経験を伝承したりといった関係が途絶えてしまっている。国際交流活動が再開しつつある中、このような関係性を、数年の時間をかけて培っていけるよう、教職員による対学生の粘り強い対応やサポートの充実が求められる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
留学体験に関し、オハイオ大学長期研修は既に渡航を再開していたことから、2023 年度参加者向けの説明会やオリエンテーションにて経験者による体験共有の機会を設けた [1120a]。夏、春のいずれの研修も、派遣前にオリエンテーションを複数回実施しているため、その場を活用して過去の参加者からの体験共有の不足を補うようにした。夏季休業中に実施したブリティッシュ・コロンビア大学英語短期研修（カナダ）は、カナダに留学経験のある委託業者のスタッフに現地のホームステイ事情を説明してもらい、過去の参加者のレポートを参照するよう呼びかけた。春季休業中のグアナフアト大学スペイン語短期研修（メキシコ）は、上記カナダ研修を引率した職員が、その足でグアナフアト大学を現地視察し、受け入れ体制や治安状況等をあらかじめ確認したうえで実施を決定した。同じく春季のグリフィス大学英語短期研修（オーストラリア）は、当初予定していたニューイングランド大学での研修がコロナ禍を経て実施困難となったため、同国内で短期研修を受け入れており、かつ本学の協定校でもあるグリフィス大学を研修先として選定した [1120b]。 留学生寮の RA については、2019 年度 RA 経験者 1 名を 2022 年度に再度採用し、経験が継承されるよう配慮した [1120c]。また、RA ハンドブックを用いて、職務内容や年間行事、入寮・退寮時の心得、災害時対応、引き継ぎ事項等を入居前オリエンテーション時に職員から説明するとともに [1120d]、定期的に RA と対面ミーティングを実施したほか、RA から提出される週間報告書等を通じて RA とのコミュニケーションを密にし、RA 業務を監督した。	

Ⅱ. 自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・アフターコロナを見据えた新しい国際交流事業の検討。 ・オハイオ大学協定締結 50 周年事業の検討。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んで

いるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
(1) 国際センター・国際連携課の事業・業務計画を策定し、計画に沿った事業の管理・運営を実施している［1120e, p.20］。この事業計画は、国際センター運営委員会（2022年4月28日）及び国際・地域戦略部門会議（2022年5月12日）において報告し、意見を求めたうえで全学的な周知を行った［1120e,f］。事業・業務計画は、会議資料を本学の教職員専用の留学・国際交流のページに掲載しているため、教職員の閲覧が可能である。また、事業計画に基づいた事業の実績について、翌年度の国際センター運営委員会（2023年4月27日）で事業実施報告を行った［1120g, p.11］。検証と自己点検については、国際センター運営委員会の事業報告の際に行っている。 (2) 委員会活動は、国際センター運営委員会を計画に基づき年5回開催した［1120g, p.12］。議事録は、メールを通じた各委員による事前確認を経て、次回委員会の席でも提示し、意見を求めたうえで確定としている。議事録と会議資料は、教職員専用ページ上での閲覧が可能である。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目No.1120	・重要審議事項等については、副学部長を主な参加者とする国際センター運営委員会で意見を求め審議を行ったうえで、国際・地域戦略部門会議で意思決定する体制を構築している。国際センターの運営にかかる重要事項等についても、国際センター長及び副センター長（2名）と事務系管理職で構成される国際センター連絡会を適宜開催し、相談・協議したうえで方針を固めている［1120h］。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目No.1120	アフターコロナにおける最新の動向に配慮した国際交流プログラムの再構築
今後の改善・向上方策	
・コロナ禍による日本及び渡航先の水際対策が緩和または終了されるなか、学生の送り出し・受け入れともに再活性化してきている一方、燃料費の高騰や世界的インフレ、急激な円安等により、留学・海外研修の費用がコロナ禍以前に比して、著しく高くなっている。かかる状況下、学生のニーズに基づくことを大原則としながら、より多くの学生の参加を促すために、費用を低く抑える必要がある。そのため、他大学や受け入れ先、旅行手配業者等を通じて積極的に情報収集を行い、国際交流の最新の動向に配慮しながら、柔軟に国際交流プログラムを適宜再構築していく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・オハイオ大学協定締結 50 周年事業の実施。 ・予測困難な時代における柔軟な国際交流事業の企画・実施。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	オハイオ大学長期研修説明会資料	○
1120	b	国際センター運営委員会（メール会議）議事録	○
1120	c	2019 年度及び 2022 年度 RA 誓約書	○
1120	d	2022 年度 RA ハンドブック	○
1120	e	2022 年度第 1 回国際センター運営委員会資料 https://www3.chubu.ac.jp/international_exchange/faculty_staff/news/28058/	○
1120	f	2022 年度第 1 回国際・地域戦略部門会議資料 https://www3.chubu.ac.jp/international_exchange/faculty_staff/news/28084/	○
1120	g	2023 年度第 1 回国際センター運営委員会資料	○
1120	h	2022 年度第 8 回国際センター連絡会議事メモ	○

提出区分　○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　運営委員会で年間事業・業務計画が策定され、事業実施報告を行い検証と自己点検を行っている。また、議事録作成に関する手続きについても適切に行っている［1120e］［1120f］［1120g］。
長所・特色
1120　運営委員会の資料及び議事録を教職員専用ページ上で閲覧できるようにしていることは評価できる［1120e］［1120f］。
留意点
特になし

2023年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	国際・地域推進部　地域連携課
人員構成	専任・嘱託　　６人、　派遣・契約事務補助員　１人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	実業界のニーズを踏まえた特色あるプログラムの実施・運営
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
（株）フォーラムエンジニアリングと提携することにより、企業とのマッチング及び広報が効果的に行われ、企業のニーズに沿った研修を対面及びオンラインで実施し、講座数、受講者数ともに増加した。また、学長主導の「CU Synergy Program」を教員、関連部署と連携を図りながら開始し、ニーズに応じた運営プログラムにより、受講生から高い評価を得、アドバンスコースへ繋がることとなった。[1120a] [1120b] [1120c] [1120d] [1120e] [1120f]。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	中部大学アクティブアゲインカレッジのカリキュラムの充実に向けて検討、実施案の作成
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
カリキュラムの充実に向け科目名の変更、受講者アンケート、ヒアリング等実施した。また、学習環境の改善・充実に向け、講義室の環境整備について検討・提案を行い、講義室の床等一部修繕が行われた。 [1120g] [1120h] [1120i] [1120j] [1120k]。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	ウイズコロナ・アフターコロナにおけるエクステンションカレッジの在り方と運営の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
2022年度もコロナ禍の対応で遠隔で実施したが、2023年度春学期は大学の方針に沿って対面の方向で教務支援課、学部等と連携を図りながら、エクステンションカレッジとして初めて対面で実施することを提案し、地域連携センター運営委員会、国際・地域戦略部門会議で承認された。 [1120l] [1120m] [1120n] [1120o] [1120p] [1120q] [1120r]。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	ウイズコロナ・アフターコロナにおける地域との連携企画の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
コロナ禍の影響もあり、具体的な連携企画には至らなかったが、各自治体等との打合せについてはZOOM等の使用により、遠隔においても活発な意見交換を行うことができた。 [1120s] [1120t]。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・「智識の森開放講座」等新たなリカレント教育事業の充実・発展を目指す。 ・既存のリカレント教育事業の活性化を図り、受講者、入学者を増やす。 ・学長認定資格について、学内の認知度を高め参加教員や取得学生の増加を目指す。 ・ウイズコロナ・アフターコロナにおける地域との連携事業を検討・実施する。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
1120 地域連携課は、「地域と協働して、地域社会に貢献することができる実践的人材の育成、生涯学習の振興及び各種事業の推進を図り、もって本学における教育研究と地域社会の発展に寄与すること」を目的とした地域連携センターの事業運営の管轄部署として、事務分掌に則り、年度重点目標を設定し、センター事業の改善・向上に向けて地域連携センター運営委員会を開催し、委員による審議、検証が行われている。なお、同センター運営委員会の下には事業別にCOC推進委員会、産業界ニーズ推進委員会、CAAC推進委員会の３つの推進委員会があり、各推進委員会で審議された重要事項については、地域連携センター運営委員会を経て、国際・地域戦略部門会議にて報告され、検証が行われている。各事業の方針については、「学園ビジョン2021-2025実行計画」、「2022・2023年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画案について」に基づき策定されている。[1120u] [1120v] [1120w] [1120x] [1120y] [1120i] [1120z] [1120q] [1120z1] [1120z2] [1120z3 pp.3,6,11] [1120z4] [1120z5]。 1120 COC継続事業については、COC推進委員会を年4回開催し、事業計画、その他運営に関する重要事項を検討・審議している。活動内容については、成果報告書にまとめ学内外の関係機関への配付やHPにて公開している。なお、学長を委員長として、学部長、春日井市職員等による内部評価委員会を設置し、成果報告書に基づき、事業の点検、評価を行っている。また、学長認定資格「地域創成メディエーター」の周知のため、チラシのデザイン・内容を親しみやすくわかりやすいものとなるよう見直しを行った。「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）にかかる協定」を岐阜大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、本学にて取り交わし（毎年度更新）、サマースクール、全国学生交流会等連携事業を実施し、学生が他大学学生と交流し学び合う機会を創出している。なお、連携事業の運営については、各大学長が出席する運営会議、担当者による人材育成部会、評価委員会、外部評価委員会にて審議、評価が行われている。[1120z6] [1120z7] [1120z8] [1120z9] [1120z10] [1120z11] [1120z12] [1120z13] [1120z14] [1120z15] [1120z16] [120z17] [1120z18] [1120z19] [1120z20] [1120z21] [1120z22] [1120z23] [1120z24]。 1120 産業界ニーズ継続事業については、産業界ニーズ推進委員会を年2回開催し、事業計画、その他運営に関する事業の検討を行っている。学長認定資格「リスク予防管理士」については、各企業において文系理系問わずリスクマネジメントに関わる人材が求められる時代に対応すべく、対象を理系３学部から全学部を対象とすることと、これまで認定要件が揃えば申請なしで取得できた資格取得方法を見直し、学習効果を高めるため申請方式とする提案を行い、同推進委員会、地域連携センター運営委員会、国際・地域戦略部門会議の審議を経て2023年度より実施することになった。[1120z26] [1120z27] [1120z22] [1120z23] [1120z24]。 1120 中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）の運営については、CAAC推進委員会を年3回開催し、事業計画、その他運営に関する事項を検討している。2022年度はCAACの充実に向け、受講者アンケート、ヒアリング、科目名				

の変更を行うとともに、講義室の環境整備について検討・提案を行った。広報はSNS等多様な媒体を活用する等して強化した結果、入学者及び、資料請求者数が増加した[1120z25] [1120z26] [1120z27]。 1120　「学園ビジョン実行計画2021-2025」で掲げられた1-8「新たなリカレント教育の展開」及び、2-3「多様な層からの学生の受け入れ」のビジョンに沿って、智識の森開放講座オンラインセミナーが、新規事業として2021年度に開講され好評を得たことから、2022年度は3講座を実施した。「いつでも誰でもどこでも学べる」講座として全国各地から多様な世代が受講し、受講者からも高い満足度が得られている。なお、当日参加できなかった受講者や復習希望者に対してはオンデマンド受講の対応を行い、満足度を上げている。[1120z3 pp.3,6,11] [1120z28] [1120z29] [1120z30] [1120z31][1120z32] [1120z33]。 1120　地域連携講座、ジュニアセミナーを開催し、多様な層からのニーズに対応したプログラムを企画・実施した。また、新たに「中部大学サッカースクール」を開講し、地域の小・中学生のサッカー技術の向上に貢献した。[1120z34] [1120z35] [1120z36] [1120z37] [1120z38] [1120z39] [1120z40] [1120z41]。 1120　新たな広報の媒体として、地域連携センターのインスタグラムを立ち上げ、多様な活動をタイムリーに情報発信し、リカレント教育を特集とした外部機関からの取材やテレビ局の取材にも積極的に応じ、学内外へのPRの強化に努めた。[1120z42] [1120z43] [1120z44]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	中部大学の新たなリカレント教育としての“いつでもどこでも誰でも学べる”「中部大学智識の森開放講座」の充実に向けた取組み
項目No.1120	企業のニーズに対応した「CU Synergy Program」、「企業研修」の充実に向けた取組み
項目No.1120	人生100年時代における中部大学独自のリカレント教育としての「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC)」の充実に向けた取組み
項目No.1120	教職協働で取組む地域創成メディエーター、リスク予防管理士の育成プログラム

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	「リスク予防管理士」資格プログラムの安定的運営
今後の改善・向上方策	
2023年度から全学部を対象とし申請方式となる等の大きな変更があるため、学生が支障なく資格取得に向けた学びができるよう、各学部、関連部署と密に連携を取り合い円滑なプログラムの実施と学生への周知を徹底する。	

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	エクステンションカレッジの決済システムの検討と導入
今後の改善・向上方策	
エクステンションカレッジの受講料納入については、これまで郵便振込のみとしていたが、受講生の利便性、事務作業の効率化を図るため、決済システムの導入に向け検討する。	

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	「智識の森開放講座オンラインセミナー」の運営体制の強化
今後の改善・向上方策	
オンラインセミナーの運営ができる担当者が限られているため、オンデマンド配信も含め安定的で円滑な運営ができ	

るよう、複数の担当者での対応等体制の強化を図る。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
・「地域創成メディエーター」、「リスク予防管理士」のプログラムの充実と有効なPRによる取得者増 ・CAACの科目追加等カリキュラムの充実 ・「智識の森開放講座オンラインセミナー」、企業研修等リカレント教育の充実と安定的運営

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	契約書（株）フォーラムエンジニアリング	〇
1120	b	2022年度地域連携センター報告	〇
1120	c	【起案】中部大学技術講座（仮称）「AIR基礎と応用」開講に伴う施設使用及び請求書の発行について	〇
1120	d	CU Synergy Program リーフレット	〇
1120	e	CU Synergy Program ： AI講座受講者アンケート	〇
1120	f	CU Synergy Program ：「AI基礎と応用アドバンスコース」開講のご案内	〇
1120	g	【メール審議結果】2022年度第2回CAAC推進委員会「科目名変更及びそれに伴う「中部大学アクティブアゲインカレッジ」規則の改正について（持ち回り審議）	〇
1120	h	中部大学アクティブアゲインカレッジ規則の一部を改正する規則 新旧対照表（案）	〇
1120	i	2022年度第2回地域連携センター運営委員会議事録	〇
1120	j	2022年度第2回国際・地域戦略部門会議事録	〇
1120	k	2022年度第3回中部大学アクティブアゲインカレッジ推進委員会議事録	〇
1120	l	2022年度春学期エクステンションカレッジ実施案	〇
1120	m	2021年度第4回地域連携センター議事録	〇
1120	n	現状報告（地域連携センター）2021年度第4回国際・地域戦略部門会議資料	〇
1120	o	2022年度秋学期エクステンションカレッジ実施（案）	〇
1120	p	2023年度（春学期）中部大学エクステンションカレッジの開講形式について（案）	〇
1120	q	2022年度第4回地域連携センター運営委員会議事録	〇
1120	r	2022年度第4回国際・地域戦略部門会議議事録	〇
1120	s	【メール】瑞浪市役所ミライ創ろうまい課でのご相談	〇
1120	t	【メール】恵那市との連携授業に関するお打ち合わせについて	〇
1120	u	中部大学地域連携センター運営委員会規程	〇
1120	v	中部大学地域連携センター規程	〇
1120	w	事務分掌（地域連携課）	〇
1120	x	年度別重点目標シート	〇
1120	y	2022年度第1回地域連携センター運営委員会議事録	〇
1120	z	2022年度第3回地域連携センター運営委員会議事録	〇
1120	z1	2022年度第5回地域連携センター運営委員会議事録	〇
1120	z2	2022年度国際・地域戦略部門意思決定プロセス	〇
1120	z3	学園ビジョン2021-2025実行計画 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/news/detail-4666.html	〇
1120	z4	2022・2023年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画案について	〇

1120	z5	2022 年度地域連携センター年間事業・業務計画	○
1120	z6	2022 年度第 1 回 COC 推進委員会議事録	○
1120	z7	2022 年度第 2 回 COC 推進委員会議事録	○
1120	z8	2022 年度第 3 回 COC 推進委員会議事録	○
1120	z9	2022 年度第 4 回 COC 推進委員会議事録	○
1120	z10	2022（令和 4）年度文部科学省地（知）の拠点継続事業成果報告書 https://www.chubu.ac.jp/community-extension/wp-content/uploads/sites/17/2023/03/coc-report-2022.pdf	○
1120	z11	2022 年度第 10 回 COC 継続事業内部評価委員会議事メモ	○
1120	z12	「地域創成メディエーター」チラシ	○
1120	z13	「地（知）の拠点大学による地方創成推進事業（COC+事業）にかかる協定」	○
1120	z14	「サマースクール」チラシ	○
1120	z15	ぎふ COC+人材育成部会資料（中部大学）	○
1120	z16	「令和 4 年度全国学生交流会」チラシ	○
1120	z17	「令和 4 年度全国学生交流会」フェイスブック投稿画面	○
1120	z18	第 12 回ぎふ COC+事業推進コンソーシアム運営会議資料	△
1120	z19	第 54 回～63 回ぎふ COC+事業推進コンソーシアム人材育成企画部会資料	△
1120	z20	第 9 回ぎふ COC+事業推進コンソーシアム幹事会　第 7 回ぎふ COC+事業推進コンソーシアム評価委員会資料	△
1120	z21	第 7 回岐阜大学地域協学センターCOC+事業外部評価委員会資料	△
1120	z22	2022 年度第 1 回産業界ニーズ推進委員会議事録	○
1120	z23	2022 年度第 2 回産業界ニーズ推進委員会議事録	○
1120	z24	2022 年度第 5 回国際・地域戦略部門会議議事録	○
1120	z25	2022 年度第 1 回中部大学アクティブアゲインカレッジ推進委員会議事録	○
1120	z26	2021 年度中部大学アクティブアゲインカレッジ　第 8 期生　募集活動と対応状況 （2021 年度第 3 回中部大学アクティブアゲインカレッジ推進委員会資料）	○
1120	z27	2022 年度中部大学アクティブアゲインカレッジ　第 9 期生　募集活動と対応状況 （2022 年度第 3 回中部大学アクティブアゲインカレッジ推進委員会資料）	○
1120	z28	「智識の森開放講座オンラインセミナー（江戸の「学び」と今の「教育」）」チラシ	○
1120	z29	「智識の森開放講座オンラインセミナー（江戸の「学び」と今の「教育」）」アンケート集計結果	○
1120	z30	「智識の森開放講座オンラインセミナー（古代エジプトからみる現代、そして未来）」チラシ	○
1120	z31	「智識の森開放講座オンラインセミナー（古代エジプトからみる現代、そして未来）」受講者アンケート結果	○
1120	z32	「智識の森開放講座オンラインセミナー（東ヨーロッパを知るための入口）」チラシ	○
1120	z33	「智識の森開放講座オンラインセミナー（東ヨーロッパを知るための入口）」受講者アンケート結果	○
1120	z34	2022 年度地域連携センター現状報告（2022 年度第 1～5 回地域連携センター運営委員会資料）	○
1120	z35	2022 年度公開講座事業予定（案）	○
1120	z36	「中部大学　ジュニアセミナー2022 夏講座」チラシ	○
1120	z37	「中部大学サッカースクール×トラウムトレーニング」チラシ	○
1120	z38	「中部大学　地域連携　夏講座　ジュニアセミナー2022」チラシ	○
1120	z39	「中部大学　ジュニアセミナー2022 秋講座　」チラシ	○
1120	z40	「中部大学　地域連携　秋講座　ジュニアセミナー2022」チラシ	○
1120	z41	中部大学サッカースクール×風間八宏監修トラウムトレーニング規約	○
1120	z42	中部大学地域連携センター　インスタグラム https://www.instagram.com/chubuuniversitycca/	○

1120	z43	【中部大学×リカレント教育】誰でも学び直しができる！社会のニーズに対応したプログラムとは（JobQ Town）https://job-q.me/articles/14750	○
1120	z44	中京テレビ CAAC 取材　https://www.chubu.ac.jp/news/11594/	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　事務分掌に則り、年度重点目標を設定し、運営委員会にて審議、検証が行われている [1120u] [1120v] [1120w] [1120x] [1120y] [1120i] [1120z] [1120q] [1120z1] [1120z2] [1120z3] [1120z4] [1120z5]。
長所・特色
1120　運営委員会で年間事業・業務計画が策定されており、各推進委員会で審議された重要事項について、運営委員系を経て部門会議に報告、検証が行われていることは評価できる[1120u] [1120v] [1120w] [1120x] [1120y] [1120i] [1120z] [1120q] [1120z1] [1120z2] [1120z3] [1120z4] [1120z5]。
留意点
特になし

2023年度（対象：2022年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	教育支援部　教育支援課
人員構成	専任3人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	管理運営組織として担当する統括的業務の範囲をより明確にする必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
教育支援部に所属する各課・センターはそれぞれの目的に沿って運営されており、教育支援課としては、各課・センターの学部等重点事業計画や委員会活動報告などの取りまとめなどを行っているが、各部署の運営上の課題解決について、統括的に力を発揮するまでには至らなかった。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
学生への安定的な経済的支援のため、高等教育の修学支援新制度における機関要件確認事務を滞りなく行う。 研修センターの事務手続きについて、研修センターおよび学生支援課などと連携し、滞りなく進める。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120　2022年度事務分掌に則り業務を行った。〔1120a〕 1120　教育支援部に所属する課へ以下の書類提出を依頼し、提出資料をとりまとめ、担当部署へ提出した。 ［1120b］［1120c］ 1. 2023･2024年度以降における学部等重点事業計画 →取りまとめ提出後、学長ヒアリングの日程調整および当日の対応をおこなった。 2. 2023～2027年度中期予算調査票 1120　研修センター運営委員会開催の連絡調整、議事録作成を行った。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120	研修センター業務を滞りなく行えるよう運営委員会の連絡調整等を行っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	高等教育の修学支援新制度機関要件について関係部署の情報共有が必要である。
今後の改善・向上方策	
高等教育の修学支援新制度を受けるため、毎年度文科省へ機関要件（更新）確認申請を行っているが、制度や機関要件が変更される予定である。また、関係部署の担当者が人事異動などにより変更となることもあるので、情報共有し、遺漏の無いようにする。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
学生への安定的な経済的支援のため、高等教育の修学支援新制度における機関要件確認事務を滞りなく行う。 研修センターの事務手続きについて、研修センターおよび学生支援課などと連携し、滞りなく進める。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	2022年度事務分掌	○
1120	b	2023･2024年度以降における教育・研究に係る学部等重点事業計画	○
1120	C	学長ヒアリング日程（2022年度）について	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 教育支援部に所属する課のとりまとめをし、学長ヒアリングの日程調整を含め、事務分掌に則り業務を行った［1120a］［1120b］［1120c］。
長所・特色
特になし
留意点
1120 各課・センターなどの部署の運営上の課題解決について、統括的に力を発揮することを期待する［1120a］［1120b］［1120c］。

2023年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	教育支援部（図書館事務課）
人員構成	専任・嘱託　8　人、　派遣・契約事務補助員　9　人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	運営委員会の議論の実質化を図るため、コロナの状況を踏まえ対面開催を検討する。 委員会議事に関して、各委員との十分な打ち合わせを行う。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
図書館運営委員会は、第1回はメール審議であったが、第2回は対面開催とした。特に、第2回は為替レートの急激な変動による予算の組み換えの提案があり、対面開催が有効であった。なお、議事について委員との必要な事前打ち合わせを行った。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
経費に見合った蔵書計画・執行の推進 閲覧業務外部委託の実施検証および事務部門の委託化にかかる調査

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

（1）学園ビジョン［1120a］に基づいて、図書館運営委員長、館長、教育支援部長及び図書館事務課管理職によって作成した2023.2024年度における教育研究にかかる学部等重点計画［1120b］（学長ヒアリング）及び図書館運営委員会で諮った活動計画［1120c］において年度重点目標を定め、その実現の方策を計画し持続的に改善・向上の取り組みを行っている。 （2）運営計画決議機関である図書館運営委員会［1120d］、および所管する学術機関リポジトリ運営委員会［1120e］の開催、議事録に関する手続き［1120f］［1120g］は、適切に行っている。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No.1120d	従前からおこなわれてきた「館長との打ち合わせ」を充実し、館長、教育支援部長及び図書館事務課管理職のほか、話題によって図書・雑誌・閲覧・庶務の各部門からの参加を求め、重点計画案などの運営方針の協議のほか、渉外・加盟協会等各種団体対応状況、調査依頼等、研修情報、各部門における問題点などを資料としてまとめ、館員に回覧し共有化を図り、運営に関する館員の意識向上を図っている。2023年度からは同会を「運営打ち合わせ」と改称する。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120d	図書館においては、多大な予算の適切な配分とサービス機関としての人的マネジメントが運営上重要な要因である。図書館の設置目的である、大学設置基準38条「大学は、教育研究を促進するため、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に整備し、学生、教員及び事務職員等へ提供する」に基づいた学部等重点計画案に基づいて、教学担当副学長を委員長とし、各学部等の長を中心とした運営員会において計画された収書計画を、活動報告において検証し、持続的に改善・向上させる取り組みを行っていく。 なお、大学設置基準においては、「図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専属の教員又は事務職員等を置く」と規定されている。本館では、2022年度から開始した閲覧関係業務により、図書館情報学を修めた委託業者スタッフにより利用者のサービス品質の向上を実現しているが、労働人口動態の影響により今後予想される「館員の退職や部署異動に対する補充が困難になっていく」という課題に関して、閲覧業務を支える収書関連業務・庶務業務に関しても業務委託による人的解決策を検討する。
今後の改善・向上方策	
2024年度に図書館資料部門の現業部分を担う契約事務補助員の作業部分を業務委託化、2026年を目途に専任館員が担う業務部門について相当部分を業務委託化し、専任館員の整理専門業務及び運営業務への移行を検討する。 コンプライアンス関連では、収書部門に分散していた契約事務を庶務部門に一本化し、発注企画・執行部門との分離を徹底する。これは収書部門の負担軽減にもつながるものである。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標

経費に見合った蔵書計画・執行の推進、2024 年を目途にした第 2 次業務委託を完遂し次の段階への準備を進める。 現物資料のほか、電子ジャーナル、学術情報リポジトリのコンテンツ見直しなど、適正なコレクション構築を図る。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	学園ビジョン 2021-2025 実行計画	○
1120	b	2023・2024 年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画	○
1120	c	図書館運営委員会議事	△
1120	d	中部大学附属三浦記念図書館運営委員会規程	○
1120	e	中部大学学術機関リポジトリ運営委員会要項	○
1120	f	図書館運営委員会開催起案、議事録作成起案	△
1120	g	中部大学学術機関リポジトリ運営委員会開催起案、議事録作成起案	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 図書館運営委員会、および学術機関リポジトリ運営委員会の適切な開催、議事録作成。学部等重点計画（学長ヒアリング）及び図書館運営委員会で諮った活動計画について、その実現の方策を計画し持続的に改善・向上の取り組みを行っている［1120a][1120b][1120c][1120d][1120e][1120f][1120g］。
長所・特色
1120 業務に対する重点計画案など運営方針の協議の場を設置したことは評価できる[1120c][1120d][1120e］。
留意点
特になし

2023年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	総合情報センター事務課
人員構成	専任・嘱託　4人、　派遣・契約事務補助員　2人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	学内における組織としての在り方と位置付けの明確化。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
1120　法人、大学の情報部門3部署の職員および一部教員をメンバーにしたWGを設置し、分散している情報系部署のあり方について検討を行った。WGでは現体制の問題点を洗い出し、組織改編、組織統合におけるメリット、デメリットをまとめ上申した。	

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	スタッフの高齢化によるマンパワー不足の解消
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
1120　WGで検討した情報系部門のあり方について、3部署を1部署に統合し、属人化解消と事業継続計画実現のために複数スタッフで業務を担当するよう体制を整備できる人員配置を検討している。高齢化については、最年少の職員が他部署に異動するため、解消に至らない。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
1）遠隔授業ツールの運用管理体制の体系化と見直し 2）定型業務内容の明確化とマニュアル化

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A

評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
1120　「中部大学総合情報センター規程」、「事務分掌」に則り、中部大学の教育及び研究の推進のための情報関連環境の整備を行っている [1120a] [1120b]。 1120　総合情報センターの運営に当たっては、「中部大学総合情報センター規程」第 5 条に基づき、総合情報センター運営委員会を設置し、「中部大学総合情報センター運営委員会規程」に則り、方針や重点目標等の検討、審議を行い、その事務（議事録の作成、決裁処理等）を担当している [1120a] [1120c] [1120d]。 1120　情報セキュリティ委員会の開催に当たっては、「情報セキュリティ委員会規程」に則り開催し、その事務（議事録の作成、決裁手続き等）を担当している[1120e][1120f]。 1120　ICT 運営委員会の開催に当たっては、「ICT 運営委員会規程」に則り開催し、その事務（議事録の作成、決裁手続き等）を担当している [1120g] [1120h]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目 No.1120	学内で委員会が数多く設置されているため他の委員会と重なることが多いため、情報セキュリティ委員会、ICT 運営委員会は、委員が参加しやすいよう同一日に開催している[1120i]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	情報セキュリティ規程、管理体制の整備
今後の改善・向上方策	
1120　セキュリティインシデントを防ぐために、情報セキュリティ規程、管理体制、格付け基準等を整備する必要があるが、現在検討中の学園の情報セキュリティ管理体制の整備を待ってから、大学の管理体制を整備する予定である。	

課題事項　《箇条書き》	
項目 No.1120	情報系部署の統合後の体制整備
今後の改善・向上方策	
1120　2023 年度より部署統合は実現するが、運用体制、役割分担、組織の在り方については、今後、3 部署で検討して整備していく必要がある。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標

1） 統合された情報部門の組織の在り方と役割を明確にし、業務役割分担を見直し、運用体制を整備する。 2） 部署統合前から運用しているぞれぞれの情報システムについての知識共有、相互理解に努め、ICT の管理、運用、利活用の支援を行う。

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	総合情報センター規程	○
1120	b	総合情報センター事務分掌	○
1120	c	総合情報センター運営委員会規程	○
1120	d	総合情報センター運営委員会議事録・活動報告	○
1120	e	情報セキュリティ委員会規程	○
1120	f	情報セキュリティ委員会議事録・活動報告	○
1120	g	ICT 運営委員会規程	○
1120	h	ICT 運営委員会議事録・活動報告	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 事務分掌および規程に則り適切に委員会を行い運営されている。統合後の情報部門の体制の整備、情報システムについて知識共有、ICT 管理・利活用の支援等、改善に取り組んでいる[1120a][1120b][1120g][1120h]。
長所・特色
1120 統合後の情報部門の体制の整備および情報システムについて知識共有、ICT 管理・利活用の支援等、改善に取り組んでいる[1120g][1120h]。
留意点
特になし

2023 年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	健康増進センター事務課
人員構成	専任・嘱託　3 人、　派遣・契約事務補助員　1 人

基準 11	**大学独自の評価項目**

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	引き続き保健管理室および睡眠相談室の連携強化に向けた検討が必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
年度始めの運営委員会において決定した事業計画およびスケジュールに対し、年度末の運営委員会で保健管理室、睡眠相談室が事業報告を行い進捗状況の共有・検証および今後の取り組みについて意見交換を行った。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
・保健管理室及び睡眠相談室の各種取組の質の向上 ・診療所運営の確立

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4 段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 　・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
1120　中部大学健康増進センター規程に基づき、健康増進センター運営委員会において、事業計画、スケジュール等の決定、当年度事業報告および次年度の活動方針について報告、意見交換を行っており、運営委員会において、審議、報告された内容については、議事録を作成し保管している [1120a] [1120b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No.1120	2022 年度より診療所を開設し運営している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.1120	引き続き保健管理室および睡眠相談室の連携強化に向けた検討が必要である。

今後の改善・向上方策
保健管理室および睡眠相談室による学生・教職員への福利厚生・各種取組が適切に行われているかを運営委員会で共有・検証し、質の向上に繋げる。2020 年度より学生部へ移管となった学生相談室を含め、3 室が連携を強化し学生・教職員の健康増進に資する方策を検討していく。また、2022 年度より診療所を開設し運営。引き続き、適切な運用と担当医と相談の上、必要に応じた環境整備等を行う。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
保健管理室及び睡眠相談室の各種取組の質の向上

5. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2022 年度　第 1 回健康増進センター運営委員会議事録	○
1120	b	2022 年度　第 2 回健康増進センター運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　規程に基づき、委員会が適切に運営されており、その中で当年度の事業計画、スケジュール等の方針が決定されている[1120a][1120b]。
長所・特色

1120　委員会の中で、各業務の課題が情報共有され、学生・教職員の健康増進に資する施策が検討されていることは評価できる[1120a][1120b]。
留意点
特になし

2023 年度（対象：2022 年度）　自己点検・評価シート

自己評価組織	臨地実習推進事務課
人員構成	専任・嘱託　3 人、　派遣・契約事務補助員　2 人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.1120	各実習センターの抱えている課題・問題点・検討事項の解決に向けた取り組み。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
各実習センターの抱えている課題・問題点・検討事項及び新型コロナ感染症対策や学生交通費サポートなどについて、事務課として対応した。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
臨地実習及び実習に関連する行事が滞りなく行えるよう各実習センター教員と密に連絡をとり事務手続きを行う。 新型コロナウイルス感染症対策のイレギュラー対応を滞りなく行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

4 段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				

1120　臨地実習推進事務課の自己点検・評価活動、検証活動は、次のように行っている 〔臨地実習推進部運営委員会〕 各実習センターの活動状況、課題と目標、自己点検・評価を検証すること等を目的とし、年2回開催している。各実習センターでは、それぞれ計画的に自己点検・評価活動を行っているが、他の実習センターの自己点検・評価活動を知る機会は少なく、合同会議の場で意見交換する機会は非常に有効である。[1120a] 〔各実習センター運営委員会への出席〕 各実習センターで行っている運営委員会に可能な限り出席し実情をとらえ、臨地臨床実習の円滑な実施を行えるよう努める。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色　《箇条書き》	
項目No. 1120	各実習センター主催の「実習指導者会議」や「教育セミナー」をサポートし、大学と実習先のみならず、実習施設間の連携・情報交換にも貢献できるよう努めている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項　《箇条書き》	
項目No.1120	各実習センターの抱えている課題・問題点・検討事項の解決に向けた取り組み。
今後の改善・向上方策	
各実習センター主催の運営委員会や臨地実習推進部主催の運営委員会などを通じて、課題・問題点・検討事項を洗い出し、継続して解決に取り組んでいく。	

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
臨地・臨床実習にかかる事務手続き及び行事が滞りなく行えるよう各実習センター教員と密に連絡をとり事務手続きを行う。 新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられることに伴う各実習施設の実習受入方針に合わせた対応をする。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	2022年度　臨地実習推進部運営委員会議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120 臨地実習推進部運営委員会は、各実習センターの活動状況、課題と目標、自己点検・評価を検証すること等を目的とし、年 2 回開催している。自己点検・評価活動を合同で意見交換する機会は非常に有効である［1120a］。各実習センターの運営委員会で実情をとらえ、臨地臨床実習の円滑な実施を行えるよう努めている。
長所・特色
1120 臨地実習推進部運営委員会は、各実習センターの自己点検・評価活動を合同で意見交換する場所であり、評価できる［1120a］。
留意点
特になし

２０２３年度　自己点検・評価シート

自己評価組織	研修センター
人員構成	専任・嘱託　３人、　派遣・契約事務補助員　３人

基準 11	大学独自の評価項目

Ⅰ．課題事項等への対応状況

前年度の「自己点検・評価シート」の課題事項、直近のピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	・グランド環境の一層の向上のため翌年度も引き続き芝枯れ対策を行うこと。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
・一定面積以上の芝枯れ場所には、芝畑で育てた芝を植え付けた[1120d､1120e]。 ・冬期の一定期間をグランド使用禁止として芝を養生した[1120e]。 ・グランドにできた凸凹を改善するため、例年より多めに砂を入れ改善を図った[1120]。	

☒ 課題事項　　□ ピアレビュー結果（留意点）	
項目No.1120	新設されたレフュージア植物園の適切な施設管理を行う
改善・向上への取り組みおよび進捗状況　　＊成果の有無を問わない	
環境生物科学科教授指示のもと植物園内の不要な雑草及び雑木等を刈った[1120d、1120e]。 植物園内へのイノシシの侵入を防ぐため電柵下の除草を定期的に行った[1120d、1120e]。	

Ⅱ．自己点検・評価

0. 事前確認

前年度の重点目標を記入してください。

重点目標
安心安全快適に利用できる研修センターをめざす。 特に新型コロナウイルス感染症に配慮した運営を行う。

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の４段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

４段階で記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A

評価の視点	(1)管理運営組織（センター、事務部等）の設置目的や事務分掌等に則り、年度重点目標を設定し、持続的に改善・向上の取り組みを行っていますか。 (2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。

現状説明
・研修センター運営委員会を年 2 回開催し研修センターの食事提供業者の変更及び運営状況について報告した[1120a､1120b]。 ・研修センターの工事予定、利用状況、コロナ対策、事務連絡会議からの情報等を共有する場として定期的に全体会議を開催した[1120c]。 ・毎朝始業時に嘱託員及び管理人と業務の進捗状況等を確認する場を設けている[1120e]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目No.1120	新型コロナウイルス感染症対策の実行[1120b]
項目No.1120	毎朝の打合せで水道使用量を確認している。漏水を速やかに発見できた[1120e]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目No.1120	新型コロナウイルス感染症対策解除に伴い利用者の増加が見込まれるので円滑な対応ができるようにする必要がある。

今後の改善・向上方策
・臨時作業員に施設内の作業ができるように教育するとともに、臨時作業員が担当していた草刈り等の一部作業を外部に委託し余裕ができた労力で繁忙期に対応できるようにする。 ・グランド利用の増加が見込まれるが、適切な芝の管理を行いグランド環境を向上させる。

4. 今年度の重点目標

自己点検・評価を踏まえた、今年度の重点目標を記入してください。

今年度の重点目標
安心安全快適に利用できる研修センターをめざす。 利用者の増加が見込まれる中で、感染症による急なキャンセルにも対応できる体制をつくる。

5. 根拠資料

根拠資料No.		根拠資料の名称	提出区分
項目No.	記号		
1120	a	研修センター運営委員会議事録	○
1120	b	研修センターにおける新型コロナウイルス感染症対策 研修センターホームページ	○

		https://www.chubu.ac.jp/news/3495/	
1120	c	2022 年度職場ミーティング開催状況	○
1120	d	グランド、野球場及び植物園の状況	○
1120	e	業務日誌（抜粋）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
1120　運営委員会を適切に開催し、定期的な職場ミーティングの実施、および毎日の業務報告が行われ、情報共有が図られ適切な運営ができている[1120a]。
長所・特色
1120　定期的な職場ミーティングの実施、および毎日の業務報告が行われていて、情報共有ができている[1120c][1120d][1120e]。
留意点
特になし